

令和
8
年度版

作文の友 6

～書くこと 大好き～



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

6	年		組	名前	
---	---	--	---	----	--



原稿用紙の
正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話
二行目は一マス

会話文の次の行から
新しく文が始まると
きは一マス下げる

話の内容が変わる
ときも一マス下げる

「。」一マス

一マスあける

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

ず	と	小	さい	い	こ	ろ	に	お	兄	ち	ゃ	ん	と	お	姉	ち
の	ふ	も	と													
に	じ	の	ふ	も	と											
と	、	お	ん	で	い	る	と	、	「あ	、	に	じ	だ	」		
「	に	い	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が		
あ	の	か	ふ	し	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が
お	の	か	ふ	し	た	ね	。ど	う	し	て	い	ろ	ん	な	色	が
ん	が	聞	こ	ま	し	た	が	、	わ	か	り	ま	せ	ん		
主	人	が	さ	が	し	に	行	く								

先生と保護者の皆様へ

- 教科書との関連を図っています。
 - 児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - 参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

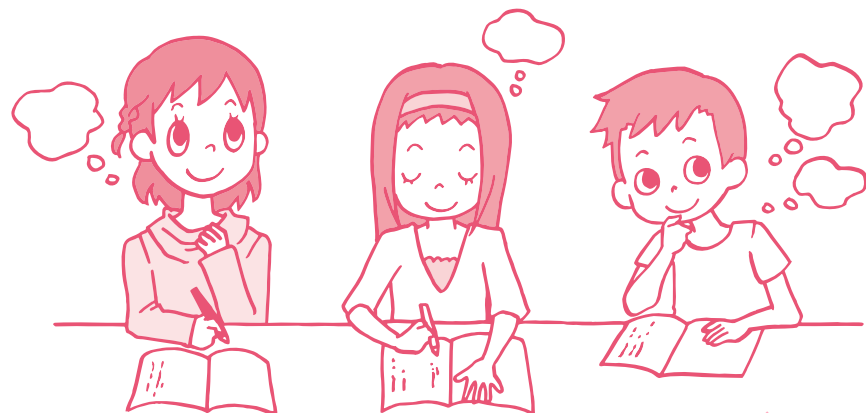
令和8年度版 作文 6年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

表現をくふうして書こう(詩)

○いろいろな表現のくふうを知り、
表現の効果を考えて書きましょう



作文の友

～書くこと 大好き～

6



目次

1	表現をくふうして書こう(詩)……………2
2	いざというときのために……………9
3	六年生の本だな……………15
4	心の動きを俳句で表そう……………22
5	発信しよう、私たちのSDGs……………27

・いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考え
て書きましょう

・論の進め方をくふうして書きましょう

・読書感想文を書きましょう

・表現をくふうして俳句を作りましょう

や目的に応じて情報を発信しましょう

詩と
の思いや
ると、自
感情を読
に深く伝えること
ができる
題材(テ
は、身近
にちりばめられて
か成長した経験などを
近な人への思いを題材にす
るのもよいで



一 表現のくふうを学ぼう。
三つの詩を読んで、自分の思いを効果的に伝えるための表現のくふうを見つけましょう。

夏の味

豊田・大林小 水 野 知 夏

おじいちゃんのぶどう畑は
夏になるとたくさんぶどうが実る
おじいちゃんのぶどう畑は
夏のおいで

キラキラがやいている
そこは私にとって上だけパ
なぜなら下は虫だけパラダイ
カエルにバツタ
私の苦手なものだらけ
虫好きの弟には上も下もパラ
両方楽しめる弟が少いうらや
おじいちゃん毎日畑へ通
山の中なの暑い
どんなに暑くても
一年間ほぼ毎日通

おじいちゃんが
一年かけて育てたぶどう
そのぶどうは私と弟の口の中で
いっしょんにして消える
あつという間に皮の山

あつという間に
一つぶもないふさの山
おじいちゃんの苦労を
私と弟はひとコずつ消していく
何だかしょわけない
おじいちゃんたちは
私たちが

おじいちゃん畑のぶどうが
ほとんど収穫されるころ
夏休みも終わりとふと気付く
一年かけて育てたぶどうは

おじいちゃんのぶどうは
私にとって夏の味
あまくときどきすっぱい夏の味

おじいちゃんのぶどう
来年も再来年もまたその来年も
私はずっとずっと食べ続けたい
（『みかわの子』第55号）

〈連〉

内容のまとまりや感動のまとまり
を表す。

〈体言止め〉

文の終わりを名詞で止めること。
読み手の想像をふくらませることが
できる。

（――部）

一年かけて育てたぶどう（夏の味）

あまくときどきすっぱい夏の味
（夏の味）

※「キラキラ」は、

を表現する。

ひまわり

刈谷・小垣江小 廣 田 鈴 珠

夏休みが始まった
私はうれしくて上を向く
ひまわりも上を向く

夏休みが始まって一週間
私は暑くてかべにもたれる
ひまわりも暑くて
フェンスにもたれる

夏休みが始まって二週間
私はプールで遊んでいる
ひまわりはうらやましそうに
こっちを見ている

夏休みが始まって三週間
私は宿題が終わらず
うつむいている
ひまわりもなぜか
うつむいている

（ひまわり）

ひまわりはうらやましそうに

フェンスにもたれる

プールで遊んでいる

ひまわりはうらやましそうに

〈擬音語〉

動物の声や物体の音を表した言葉。

ピヨピヨ ワンワン ガラガラ ザーザー

〈擬態語〉

事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく表
した言葉。

こっそり つるつる しんと ぎらぎら

夏休み終わりまであと一週間
ずっと夏休みだったら
いいのになと私はうつむく
ひまわりもうつつむいて

夏休み終わりまであと一日
私は悲しくなつてうつむく
ひまわりはうつむいて
かたいなみだを出している

ひまわりも悲しいのかな？
と思つたけど
次の日ひまわりはたおれてい
周りには
かたいかたいなみだが
散らばっていた

さようなら ひまわり……

さようなら 夏休

せみ

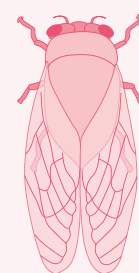
豊川・代田小 榎本寛大

地下の暗い穴の中
息をひそめて
まるでねむっているように
じっと待つ
やがて来る そのときまで
静かに 静かに

さあ もういいだろう
長い時を経て この暗い穴から出るときが
ついに来た

一歩一歩 しんちように
上をめざして ひたすらに登るんだ
高く 高く

照りつける太陽の力を借りて
精いっぱい鳴きさけぶ
伝えるんだ
はくが確かにここにいることを
強く 強く



(豊川市文詩集『えんびつ』第55号)

〈くり返し〉

伝えたいことを強く表現するために、同じ言葉をくり返すこと。

さようなら ひまわり……

さようなら 夏休み……

(ひまわり)

〈比喩〉

様子や動きをほかのものにたとえること。

おこっている人の顔はふん火直前の山のようにだ



詩の表現技法

一歩一歩 しんちように
上をめざして ひたすらに登るんだ

(せみ)

と述べて、強めたり、弱めたり、ムをト、くり返すために、主語

(~~~~部)

伝えるんだ
はくが確かにここにいることを

(せみ)

(1) あなたが気に入った作品はどれですか。

(2) どんなどころが気に入りましたか。

(3) くふうされている表現を見つけましょう。

表現のくふう		言葉
(例) 体言止め	あつという間に皮の山(夏の味)	

(2) 連想メモに書き出して、自分がいちばん伝えたいことを考えてみましょう。

(3) いちばん伝えたいことを書きましょう。

二 詩を書く。

(1) 何に書くか、題名を決めましょう。
(自分の心を表現した言葉、感じたこと、身のまわりのことを書き出してみましょう。)

(4) 3〜6ページの「表現のくふう」や作品を参考にし、原稿用紙に詩を書いてみましょう。
原稿用紙は後、3〜36ページにあります。切り取って使います。

三 書いた詩を読み合おう。

自分の思いが相手に伝わっているでしょうか。書いた詩を交換し合おう。

四 ふり返りをしよう。

表現をくふうして、自分の思いが伝わるように詩を書くことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、下の□に書き込みましょう。

《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

いざというときのために

ろんの進め方をくふうして書きましょう

私たちの身の回りでは、日々さまざまな自然災害が起こります。読み手に分かりやすく伝えるには、論の進め方や資料の活用方法のくふうが大切です。防災への取り組みについて考え、提案書をまとめましょう。

一 題材を決めて調べよう。

(1) 提案の例を参考に、調べて分かったことを書こう。

提案の例

- ・災害から身を守るために必要なこと
- ・最新の防災グッズはこれだ
- ・非常食など備蓄の大切さ
- 避難所への^{ひなん}のため

メモ

【本やインターネットで調べて分かったこと】

始め	〈導入〉
中	〈 〉
	〈 〉
	〈伝えたいこと〉
終わり	〈提案・まとめ〉

二 論の進め方をくふうしよう。
提案を分かりやすく伝えるための論の進め方、資料の活用方法を考えよう。

〈原因〉	〈結果〉
〈 〉	
〈 〉	
〈 〉	
〈考え〉	
〈事実〉	
↓	
〈考え〉	

(3) 伝えたいことを整理しよう。

(2) 提案することを決めよう。

三 提案書を完成させよう。

- (1) 読み手に分かりやすく伝わるように、自分の伝えたいことを書きましょう。
- (2) 文章が書けたら、適切な情報を追加してあるか、また説得力のある文章になっているか、文章を推敲こうしましょう。



- (3) 資料の配置や見せ方を考えて、提案書を完成させましょう。
用紙は後ろの37～38ページにあります。

四 完成した提案書を読み合おう。

完成した提案書を友達と読み合い、感想を書いてみましょう。



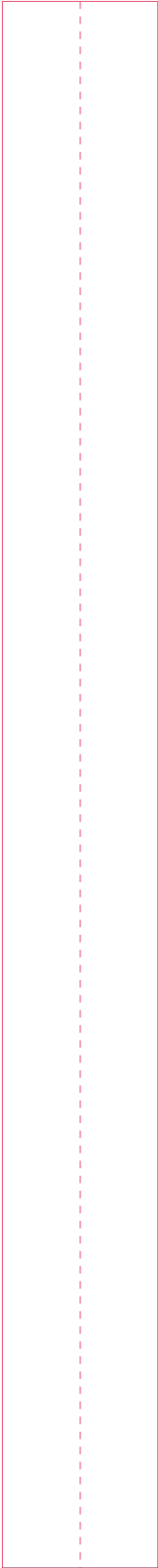
より

より

より

五 ふり返りをしよう。

論の進め方をどのようにくふうしながら提案書を作りましたか。



小学生の本だな

○読書感想文を書きましょう

今までに、どんな本を読みましたか。楽しく読んだ本、なみだを流しながら読んだ本、思わず笑ってしまった本、自分をふり返って考えることができた本もあるでしょう。

そんな本を、自分の心の中にしまいこむのではなく、友達やうちのの人など、多くの人にも、ぜひ教えてあげましょう。

いちばん書きたいことをはっきりさせよう

何を書いたらいいかわからない、という人もいます。その本を読んだときに、いちばん最初に感じた気持ちを大切にしましょう。

感 動 伝わるように書こう

自分がどこに感動したのか、どうして感動したのかを相手（読み手）に伝えるように書くためにはどうしたらよいでしょう。中心人物や登場人物の生き方や考え方に対する思いや疑問（ぎもん）を書いた「自分にも同じことがあったな。」という経験を書いたりすることが大切です。

考にして、みんさんも感想文にちょう戦してみましよう。

一 感想文から学ぼう。

瑞希さんの感想文を読みながら、感想文を書くときのポイントを見つけよう。

心の強さとは

安城・錦町小 小野 翔

①「どんなに逆風が強くても、自分が『これだ』と信じる意見を言い続けなければならない。それは必ずチャンスが来るものなんですよ。」

② これは、日本初の世界遺産となった屋久島の森を守った兵頭さんの言葉です。なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか、この本を読み始めた時には不思議でした。圧（おさ）迫（は）つ的に強い立場の国に対して、一人で屋久杉のばっ採を反対したからです。私は、自分の意見を人に伝えるのが苦手だから余計に兵頭さんの行動に興味をもちました。

③ しかし、本を読み進めていくうちに少し自分の考えが変わってきました。大多数の人たちが国の意見に従っている中で、自然を守るために十年もかけてばっ採を止め、屋久島を世界遺産へと導くことができたのは、とても勇気があることだと思いました。さらに、

始め

○ 書き出しをくふうしよう。

作者は、内容の興味をもった

書き出しをしよう。

本を、つかけになったことから

中心から（感動の理由、自分のこれまでの考えと比べるなど）

- ・ 登場人物や筆者へのよびかけから
- ・ 自分の経験から
- ・ 本の内容の紹介（自分が気に入った文のぬき出し）から

中 ③⑥

○ 内容を具体的に書こう。

兵頭さんの行動について紹介し、自分の

兵頭さんは屋久杉の森のばっ採を反対する時に、ただ反対するだけでなく、しっかりと自分の意見を伝えていました。

④ 私は、話し合いの場で人の意見に流されてしまうことがあり、自分の意見を伝えようか迷うときがあります。先日、卒業アルバムに使う写真をとる場所を五から六人の班で決めました。自分がとりたかった場所を主張することができず、友達の考えに流されて決定してしまいました。しっかりと意見を言いたいという気持ちはあっても、それを言うと反対されないか、自分勝手だと思われないか、などと考えてしまい、自分の意見を言うわけではなけれど、自分のきなかったことを後かいて、きっと自分の意見を言いつて、その上でみんなと相談

⑤ 兵頭さんが意見を主張で、私は、大人だ、心**の**強さをもつからだと思いはとてもする兵頭さんには勇気と自分なりの強さをもつ

⑥ この本の題名で、とは、世界遺産として数人で始まったばっ採

姿をふり返って考えたことをまとめています。
③④段落

「なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか」という自分の疑問に対する答えを本文や題名から考え、「心の強さ」というキーワードを使ってまとめています。
⑤⑥段落

次のようなことに気をつけて書いてみましょう。

・あらすじをまとめて書くのではなく、自分の考えにつながるエピソードを選んで書く。
・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせながら書く。
・事実（本に書かれていること）と自分の感想・意見を区別して書く。

島なのだと思います。屋久島を守った兵頭さんには、私にはな

強さがたくさんありました。その心の強さとは、自分の意見と人に伝えるということであり、正しいことを正しい、感でもあると思います。

⑦ 私は、これからの生活の中で、自分とちがう意見の強さをもちたいです。この本を通じて兵頭さんの生き方や考え方ができて本当によかったです。

（安城の子どもの読書感想文集『貝がら』第53号）

武田剛「もうひとつの屋久島から世界遺産の森が伝えたいこと」フレーベル館

感想文を書くために

- ① もう一度作品をていねいに読み返しながら、感じたことや自分の考え、気に入った部分などをメモしておく。
- ② 何を書くかを考え、中心を決める。
 - ・ 作品のテーマへの思い
 - ・ 生き方、考え方に対する思い
 - ・ 疑問点、問題点
 - ・ 自分の生活や社会とのかかわり
 - ・ 同じような経験
 - ・ 引用した部分について、自分が受け止めたことや感じたこと
- ③ どのような順序で書き進めるか、構想を立てる。

二 感想文を書く準備をしよう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読み返してみよう。

書名

(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ

作者名

(2) あらすじや本のだいたいの内容



(3) 心に残った場面や言葉、初めて知ったこと

(4) 読んで読んだものの見方



(5) 本から学んだことに対する自分の決意や思い

心の動きを はい 俳句で表そう

○表現をくふうして俳句を作しましょう

三 感想文を書こう。
どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。

○ 題名

「△△を読んで」という題名のほかにも、次のようにくふうしてみましょう。

- ・自分がいちばん考えさせられたことを短い言葉で
- ・本文中の心に残った言葉を選んで

○ 始め

書き出しのくふう（16ページ）を参考にして書きましょう。

○ 中

読み取りメモ（19～21ページ）を見て、伝えたい内容を整理しましょう。自分が経験したこと、見たこと、聞いたことや自分と登場人物を比べて考えたことも書いてみましょう。

○ 終わり

の読み取りメモを見て、心に残る終わり方になるようにくふうしましょう。自分の決意や思い、夢などを書きましょう。



《児童の作品》

風ふいて 道路いちめん 桜色

〈季語…桜 季節…春〉

柴田 一希

電線に 音符を描く つばめたち

〈季語…つばめ 季節…夏〉

後藤なつ美

赤とんぼ 野球のノック 見に来てる

〈季語…赤とんぼ 季節…秋〉

川上 翼

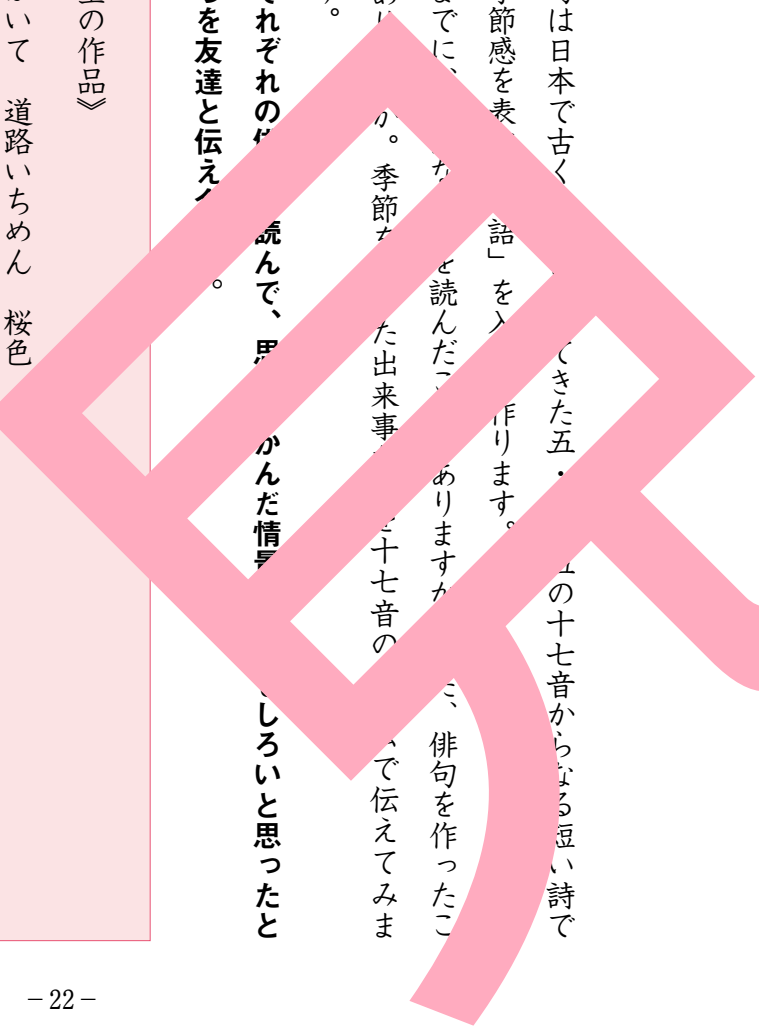
初もうで 人におされて 願い事

〈季語…初もうで 季節…冬〉

吉中 菜穂

俳句は日本で古くから作られてきた五・七・五の十七音からなる短い詩です。季節感を表現するために「季語」を入れます。今までに学んだことを思い出しながら、季節感と十七音のルールを守って作ってみましょう。

一 それぞれの体験から感じた情景や気持ちを、いろいろな言葉で伝えてみましょう。



二 材料を集めよう。

生活の中で気づいたこと、季節を感じた出来事から、俳句の材料を集めましょう。現在の季節から連想して、思い浮かぶ言葉や出来事を書き出してもよいでしょう。

季節を感じたときを思い出してみよう。

三 俳句を作ろう。

俳句には、季語と呼ばれる季節を表す言葉が必ず入ります。季語を一つ決めて作ってみましょう。そのときの情景や感動が読者に伝わるように、表現に工夫を凝らしましょう。「楽しい」「うれしい」「なつかしい」「さびしい」「静かな」といった気持ちや感覚を表現するために、自分なりに工夫してみましょう。

(2) 三の(1)から、見えたもの、聞こえた音、ただよっていたかおり、ふれた感覚、口に広がった味などをよく思い出して、五・七・五で表してみよう。

※リズムが合わない場合は、無理に作らなくてもよい。

(1) 季節の言葉を集めよう。

四 俳句を仕上げよう。

同じ言葉でも、順序を入れかえたり、表現を少しかえたりすると、感じがちがってきます。

いつの間にみんな集まる日なたぼこ



日なたぼこみんな集まるいつの間に
日なたぼこいつの間にやらみな集う



くふうしてみよう

- ・言葉の順序を入れかえる
- ・様子をほかのものに例える
- ・情景を伝えるのにふさわしい言葉を探す
- ・直接気持ちを伝える表現をさける など

(1) 自分の作りたい季節の言葉の順序を入れかえたり、表現を少しかえたりして、五・七・五で表してみよう。

五	七	五	五	七	五	五	七	五	五

(2) いちばん気に入ったものに○をつけましょう。

五 クラス句会を開こう。

作った俳句を持ち寄って、クラス句会を開きましょう。

クラス句会の進め方

- 1 作った俳句を一人一句ずつ紙に書いて提出する。
- 2 作者名は書かない。
- 3 集めた紙に番号をつけてはり出す。
- 4 はり出された句の中から、よいと思う句を一人三句ずつ選ぶ。
- 5 投票用紙に、選んだ句の番号を記入し、提出する。
- 6 投票用紙を集計して、結果を発表する。
- 7 自分の選んだ句や、自分や友人の選んだ句などについて、感想や意見を書き添える。

(---キ---リ)---ト---リ)---セ---ン---

投票用紙

名前

俳句を選ぶときのポイント

- 一 季語（季節を表す言葉）が入っているか。
 - 二 五・七・五などの、リズムがいいか。
 - 三 表現のしかたがすぐれているか。
- （たとえば、言葉の順序の入れかえ、音、情景など）

	番号
	感想(選んだ理由や気に入ったところを書こう)

- (1) よいと思った俳句を書きましよう。また、心を書きましよう。

- (2) 自分の句と感じ方や表現が似ている句を書きましよう。

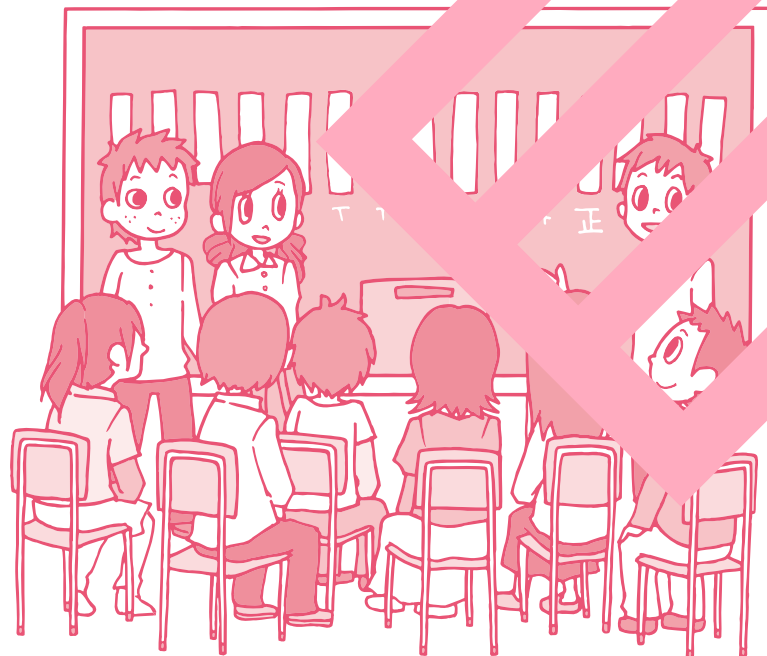
- (3) (2)で選んだ句について、どのような点が似ているの
書きましよう。

- (4) くり返しをしましょう。

表現をくふうして俳句を作り、感想を伝え合うことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、左の

に書き込みましょう。

≪…よくできた
 ○…できた
 △…もう少し
 ×…うまくいかなかった



発信しよう、
わたし私たちのSDGs

エスディージーズ

グループのパンフレットを発信しましょう

エスディージーズ

SDGs（持続可能な開発目標）は、世界中の人々が豊かに暮らせるようになるために、二〇一五年に国連で採択された十七の目標です。未来のために、今、私たちが考えるべきことは何かを発信しましょう。
エスディージーズ
相手（読み手）や目的を明確にし、SDGsについて発信するパンフレットを作りましょう。

一 テーマを決めて情報を集めよう。

どのようなテーマについて、だれに発信するのか、グループで話し合いましょう。

テーマ

対応しているSDGsの番号（1〜17）

二 パンフレットの構成を考えよう。

テーマについてさらに情報を集め、どのような記事を書くのか、どのようなパンフレットの構成にするのかなどを決めるために、グループで編集会議を開きましょう。

メモ

(4)	(3)	(2)	(1)
() さん	() さん	() さん	() さん

三 情報を集めよう。

構成が決まったら、自分が担当することについて、さらに情報を調べましょう。

情報を集めるときには、情報の信頼性と著作権に気を付けましょう。

情報①	
出典	
情報②	
出典	

情報③	
出典	
情報④	
出典	
情報⑤	
出典	

四 情報を効果的に活用しよう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報をどのように結び付けて示すと効果的か考えましょう。

(1) 教科書173ページを参考にして、キャッチコピーを考えたり、使う表やグラフを選んだりしましょう。

キャッチコピー

○読み手をひきつける短い表現のことで、ポスター全体の題名の役割も果たします。

・目立つところに配置しましょう。

表やグラフ

・どの資料から提示すると効果的であるかを考えて、資料の順番を決めましょう。

・読み手がどのように記事を読み進めていくかを考えて、配置しましょう。

(3) ページで集めた情報のテーマについて効果的に示すために、資料を選び、しぼりこみましょう。

選んだ情報
メモ

五 パンフレットを書こう。

キヤッチコピーや説明の文章、図表などの情報を使って文章を書きましよう。用紙は後ろの39〜40ページにあります。



パンフレットの完成例

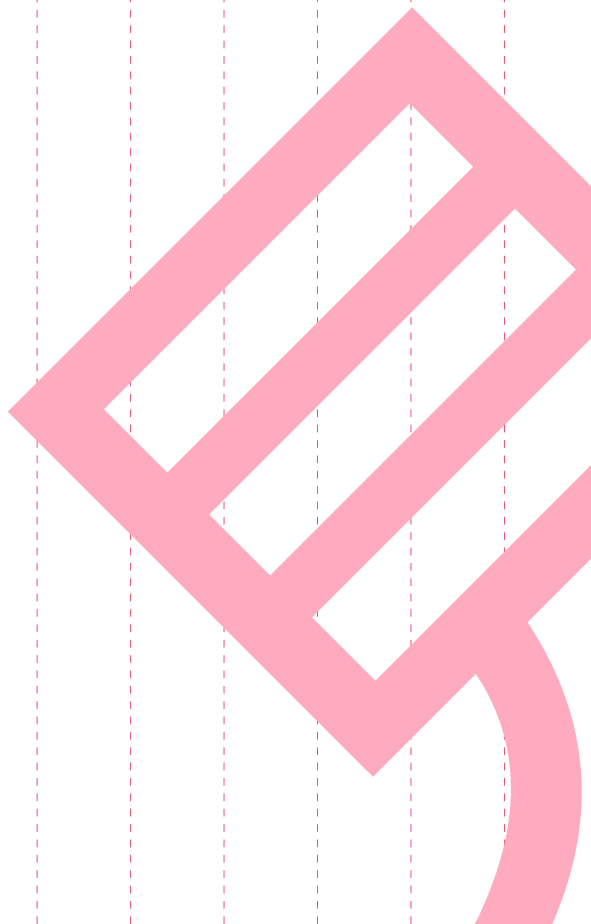
六 完成したパンフレットを、読み合おう。

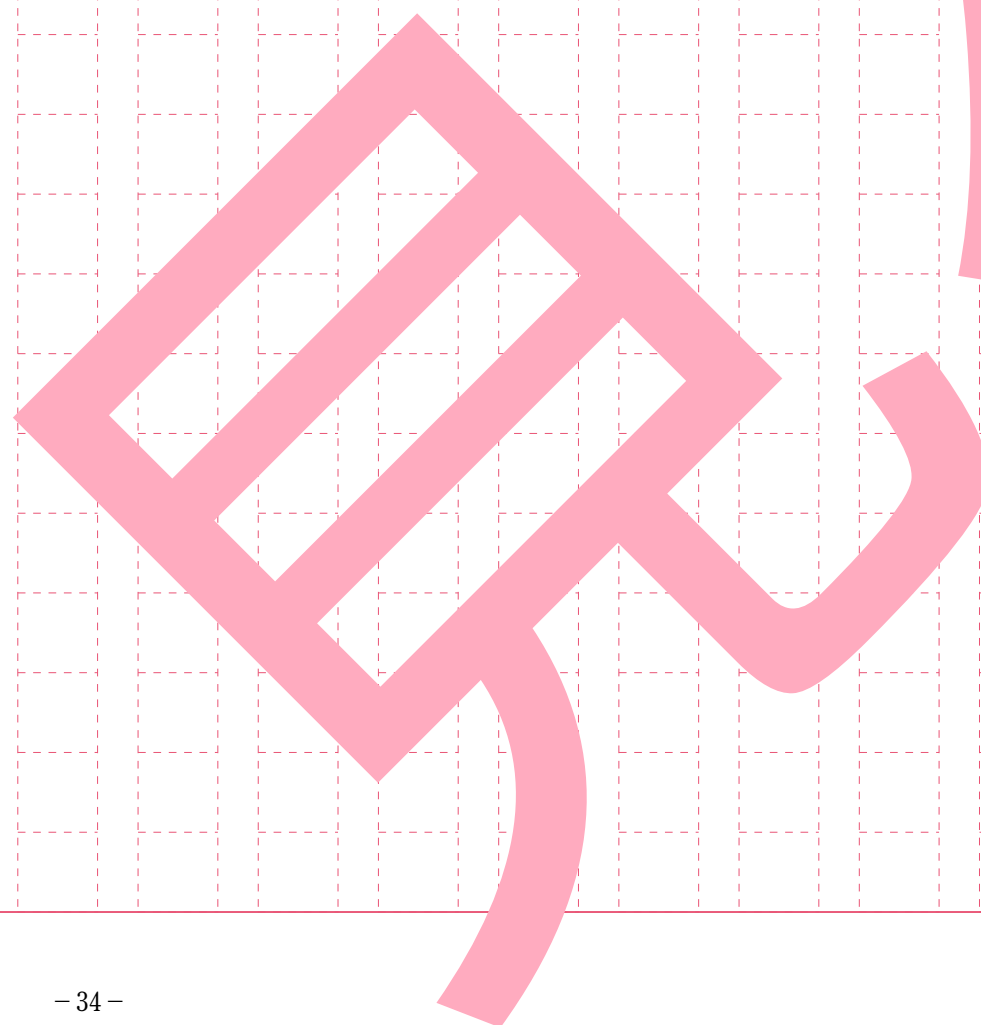
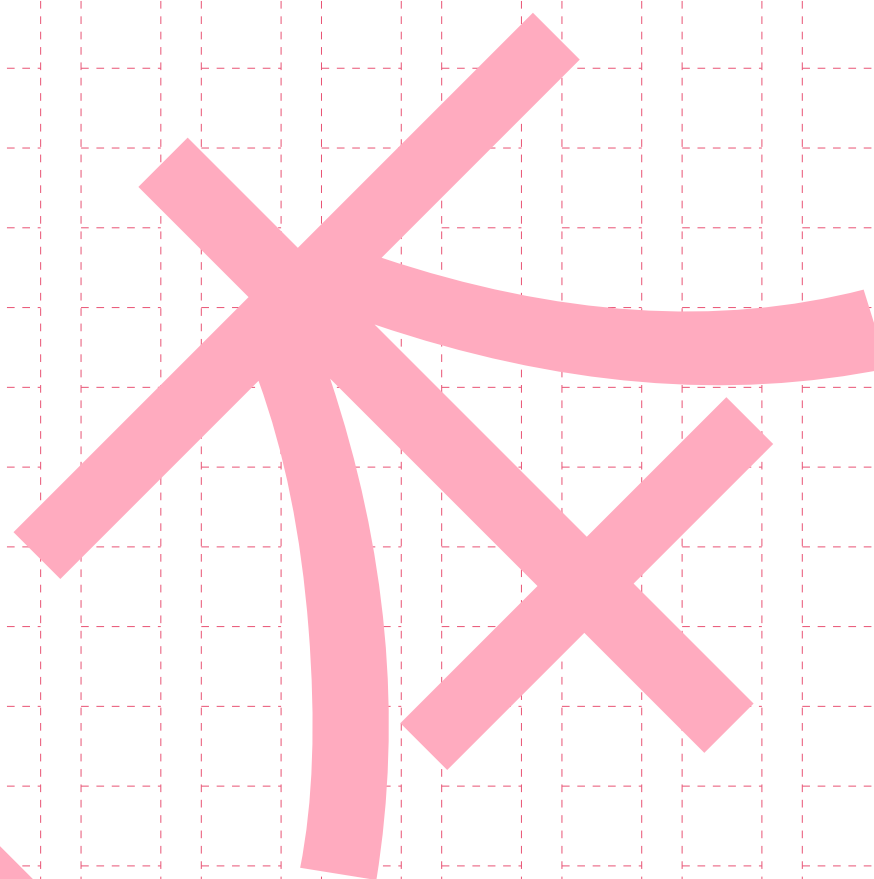
完成したパンフレットを友達と読み合ったり、ほかのグループと交換したりして感想を書いてもらいましょう。

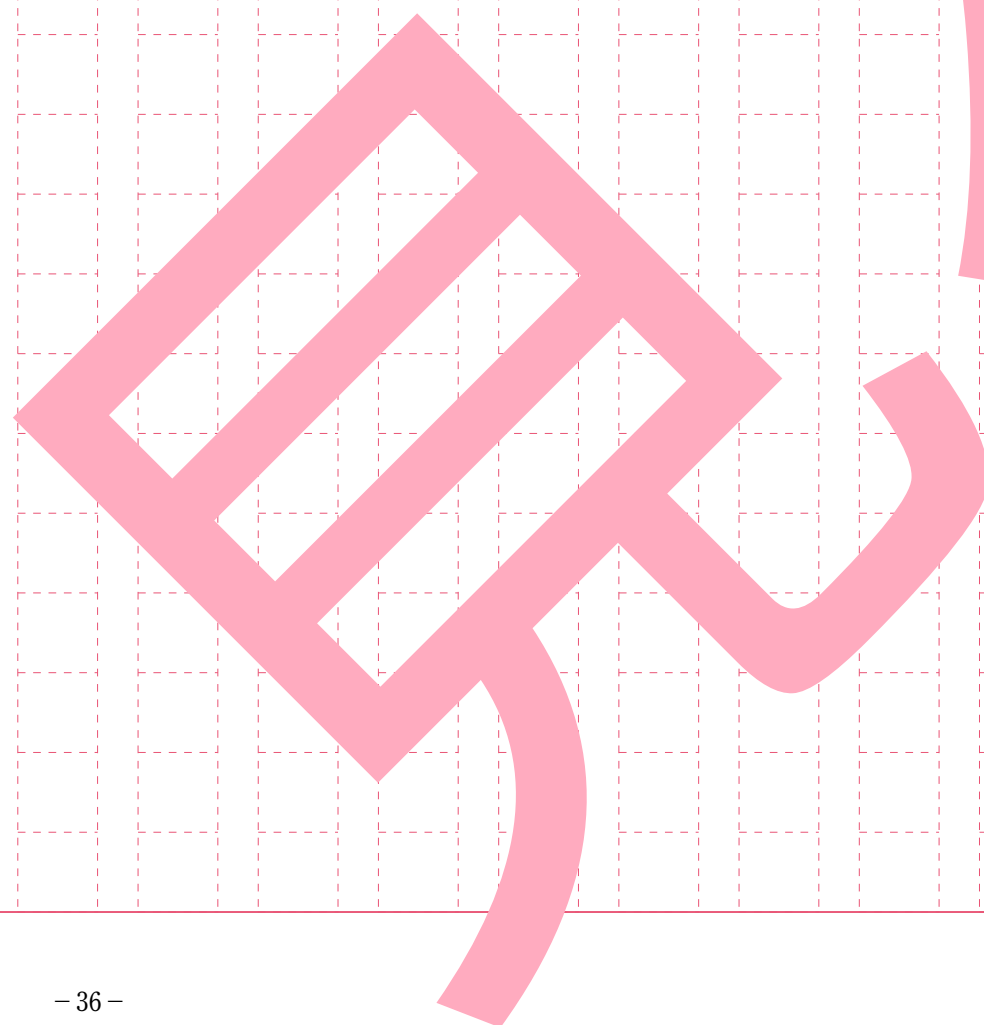
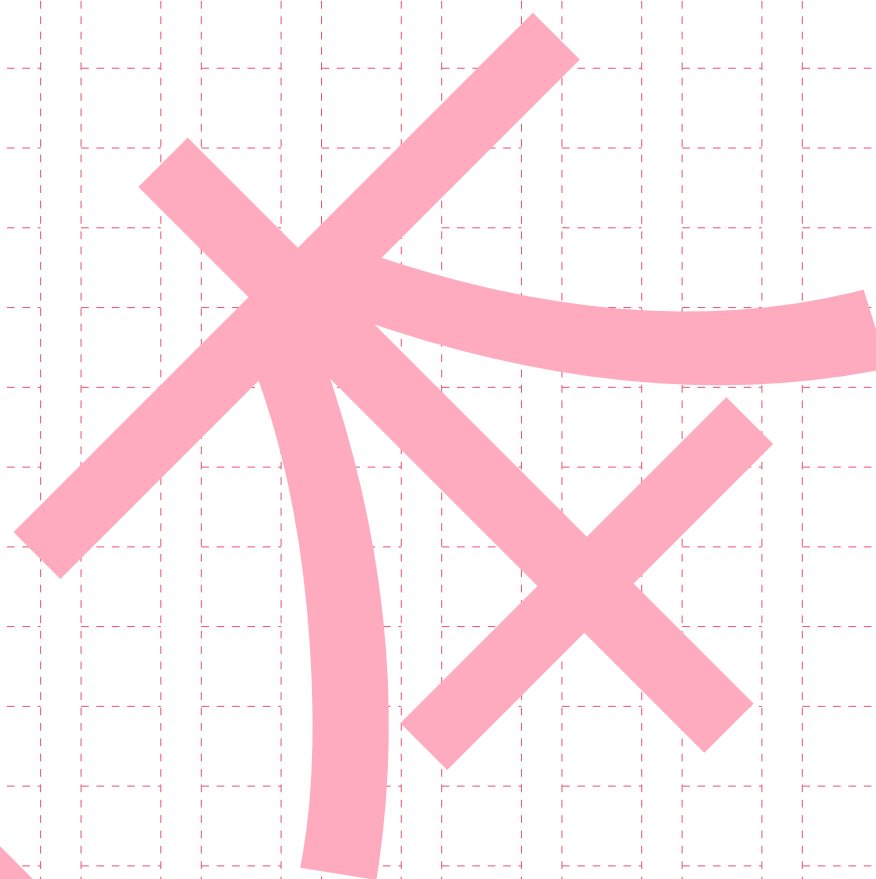
ふり返い よう。	（ より）
ふり返い よう。	（ より）
ふり返い よう。	（ より）

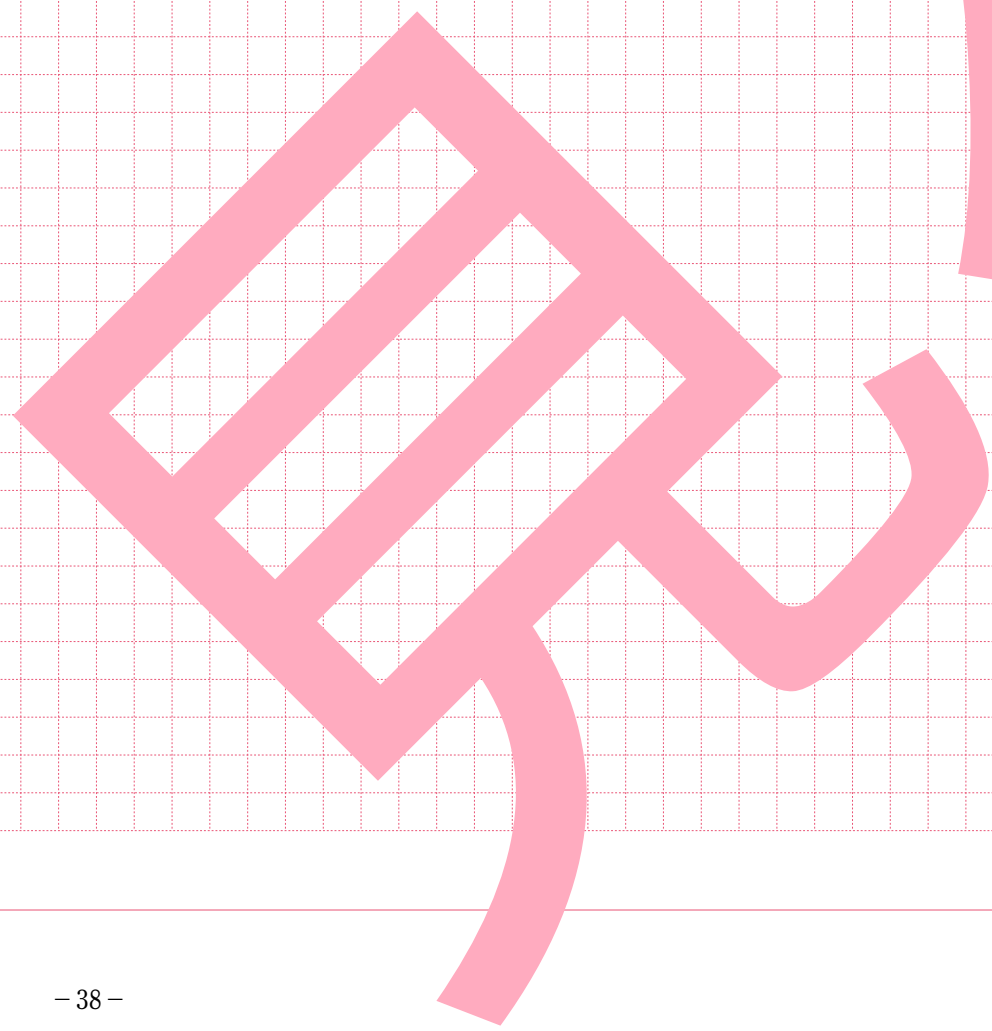
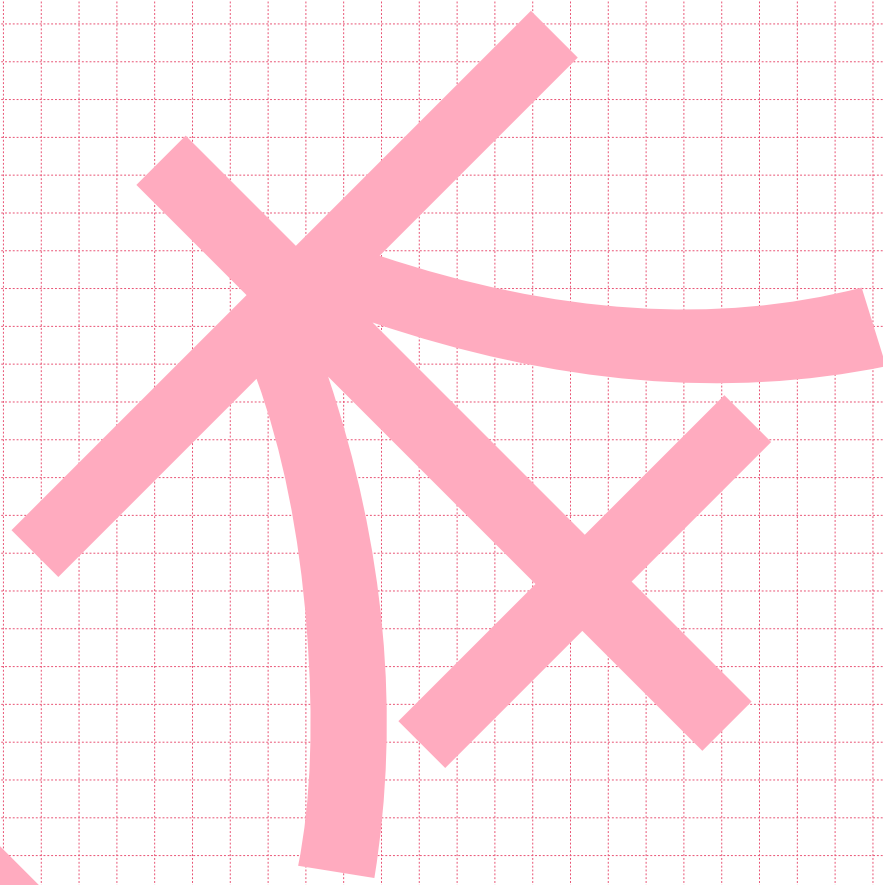
七 振り返りよう。

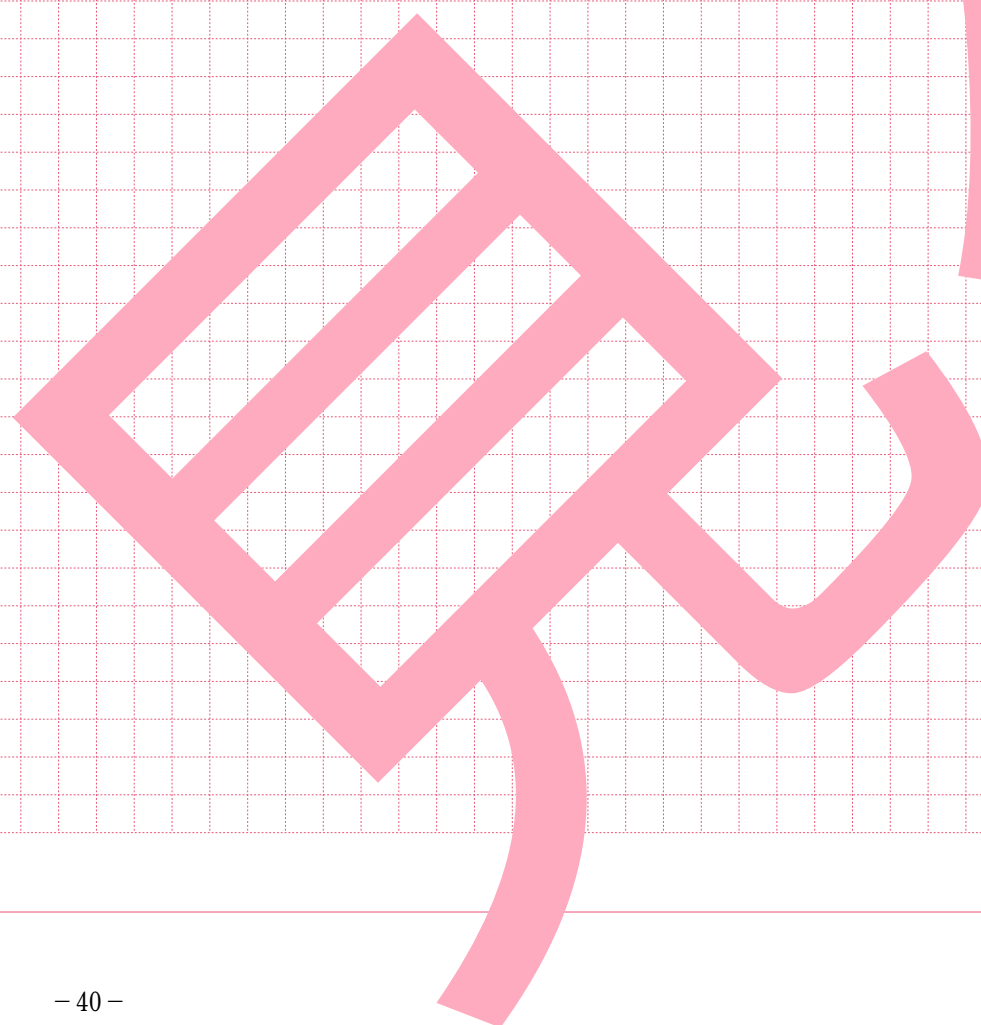
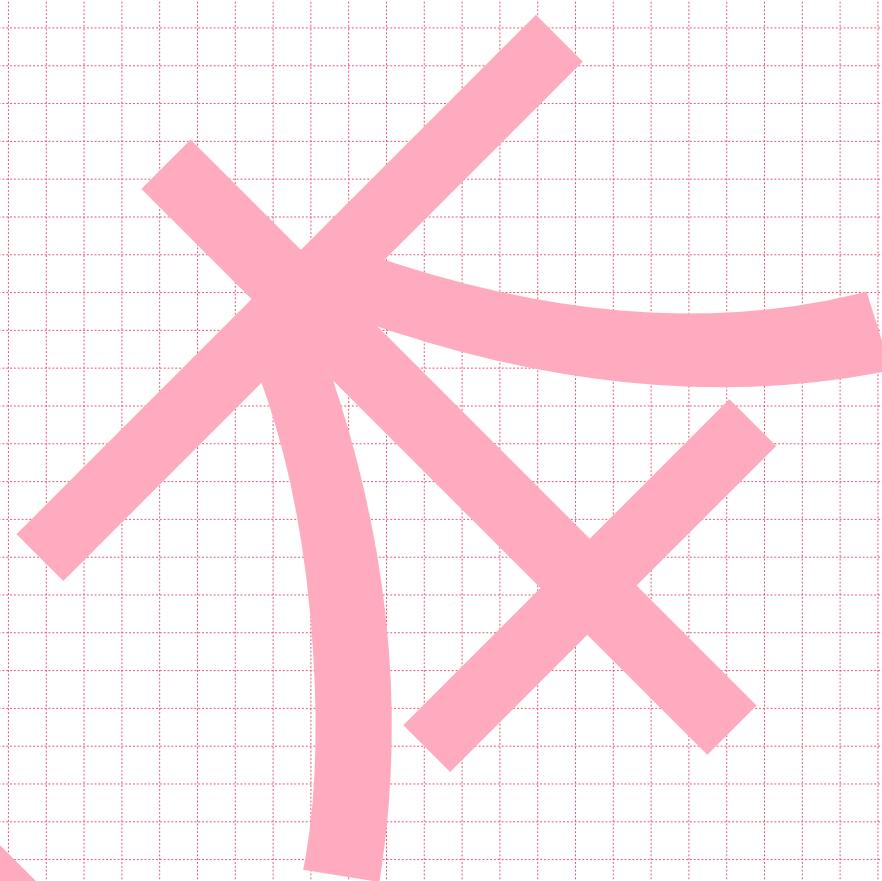
うなことに気を配りましたか。書いてみましょう。











令和
8
年度版

作文の友 6

～書くこと 大好き～

教

指導展開例あり



愛知教育文化振興会
三河教育研究会

6	年		組	名前	
---	---	--	---	----	--



原稿用紙の
正しい書き方

原稿用紙の使い方・書き直し方

題は二、三マスあける

三行目から

書き出しは一マスあける

ただし
「から書き出すとき
は一マスあけない

話しことば・会話は
行をかえる

話しことば・会話は
二行目は一マスあける

会話文の次の行から
新しく文が始まるときは
一マス下げる

話の内容が変わるときも
一マス下げる

「。」一マス

一マスあける

書き直すときの記号
つけくわえる
書きかえる
とる
行をかえる

いちばん下の「、」「。」はマスの中に入れる

さいごの一マスあける

ず	と	小	さい	い	ころ	に	お	兄	ち	ゃ	ん	と	お	姉	ち
の	ふ	も	と												
に	じ	の	ふ	も	と										
と	、	お	ん	で	い	る	と	、	「あ	、	に	じ	だ	」	。
「	に	い	る	と	、	「あ	、	に	じ	だ	」	。			
あ	に	い	る	と	、	「あ	、	に	じ	だ	」	。			
お	の	か	ふ	し	た	ね	。	ど	う	し	て	い	ろ	ん	な
ん	が	聞	こ	こ	から	出	て	る	の	か	な	。			
ま	し	た	が	、	でも	わ	か	り	ま	せ	ん				
主	人	が	さ	が	し	に	行	く							

先生と保護者の皆様へ

- 教科書との関連を図っています。
 - 児童が自分の力で文章が書けるようになることを意図して編集しています。
 - 参考作品は「みかわの子」や地域の読書感想文集に掲載されているものを使っています。
- なお、掲載作品の学校名、地区名については執筆時の名前で表記されています。

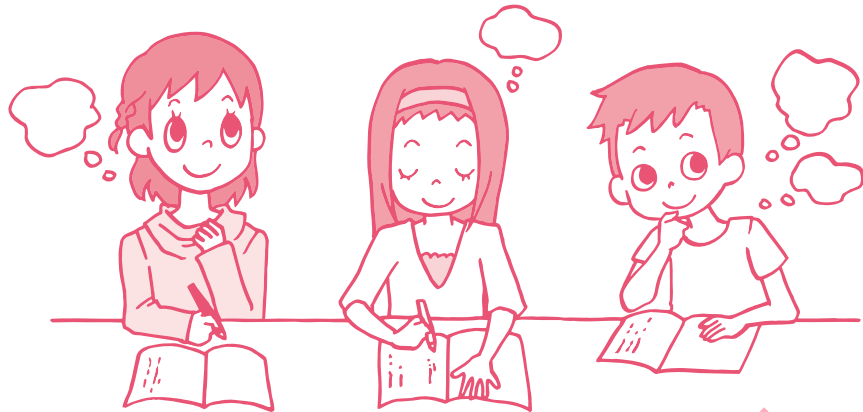
令和8年度版 作文 6年

編集 「作文の友」編集委員会
三河教育研究会
刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819
印刷 あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

表現をくふうして書こう(詩)

○いろいろな表現のくふうを知り、
表現の効果を考えて書きましょう



○目標
○関連

詩の書き方を学び、自分の思いや感動を詩で人に分かりやすく表現し、「詩を読もう」

作文の友

～書くこと 大好き～

6



目次

〈教科書との関連〉

1 表現をくふうして書こう(詩)……………2

・いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考え
て書きましょう

「詩を読もう」

2 いざというときのために……………9

・論の進め方をくふうして書きましょう

「いざというときのために」

3 六年生の本だな……………15

・読書感想文を書きましょう

「六年生の本だな」

4 心の動きを俳句で表そう……………22

・表現をくふうして俳句を作りましょう

「心の動きを俳句で表そう」

5 発信しよう、私たちのSDGs……………27

や目的に応じて情報を発信しましょう

「発信しよう、私たちのSDGs」

指導展開例あり

詩と

の思いや短い言葉

と、自分の感情を詩で

ができます

題材(テーマ)は、身近な

自分が感動したこと、

ふり返って考えよう。ま

るのもよいです。

身近な人への思いを題材にす
にちりばめられて
成長した経験などを



一 表現のくふうを学ぼう。
三つの詩を読んで、自分の思いを効果的に伝えるための表現のくふうを見つけてみましょう。

夏の味

豊田・大林小 水 野 知 夏

おじいちゃんのぶどう畑は
夏になるとたくさんぶどうが実る
おじいちゃんのぶどう畑は

比喩

おじいちゃんが
一年かけて育てたぶどう
そのぶどうは私と弟の口の中で
いっしょんにして消える
あつという間に皮の山

比喩

おじいちゃんのぶどうは
私にとって夏の味
あまくときどきすっぱい夏の味
おじいちゃんのぶどう
来年も再来年もまたその来年も
私はずっとずっと食べ続けたい
『みかわの子』第55号

体言止め

夏のにおいで

擬態語

あつという間に

比喩

キラキラがやいている
そこは私にとって上だけ

ス

なぜなら下は虫だけ

ス

カエルにバツタ

体言

ス

私の苦手なものだらけ
虫好きの弟には上も下も

ス

ス

私と弟はひとつずつ消していく
何だかしょわけない
おじいちゃんたちは
私たちを

おじいちゃん毎日畑へ通

ス

山の中なの暑い

ス

ス

一年間ほぼ毎日通

ス

ス

おじいちゃん畑のぶどうが
ほとんど収穫されるころ
夏休みも終わりとふと気付く
おじいちゃんたちは

比喩

※「キラキラ」は、

比喩で表現するが、作者が意図的にかたかなで

表現している。

〈体言止め〉

文の終わりを名詞で止めること。
読み手の想像をふくらませることができる。

（――部）

一年かけて育てたぶどう（夏の味）

あまくときどきすっぱい夏の味

（夏の味）

ひまわり

刈谷・小垣江小 廣 田 鈴 珠

夏休みが始まった

私はうれしくて上を向く

ひまわりも上を向く

夏休みが始まって一週間

私は暑くてかべにもたれる

ひまわりも暑くて

フェンスにもたれる

擬人法

夏休みが始まって二週間

私はプールで遊んでいる

ひまわりはうらやましそうに

こっちを見ている

擬人法

夏休みが始まって三週間

私は宿題が終わらず

うつむいている

ひまわりもなぜか

うつむいている

擬人法

対句

〈擬音語〉

動物の声や物体の音を表した言葉。

ピヨピヨ

ワンワン

ガラガラ

ザーザー

〈擬態語〉

事物の状態や身ぶりなどの感じをいかにもそれらしく表した言葉。

こっそり

つるつる

しんと

ぎらぎら

夏休み終わりまであと一週間
ずっと夏休みだったら
いいのになど私はうつむく
ひまわりもううつむいている

擬人法

対句

夏休み終わりまであと一日
私は悲しくなつてうつむく
ひまわりはうつむいて
かたいなみだを出している

擬人法

ひまわりも悲しいのかな？
と思つたけど
次の日ひまわりはたおれてい
周りには

かたいかたいなみだが
散らばっていた

さようなら ひまわり……

さようなら 夏休

〈くり返し〉

伝えたいことを強く表現するために、同じ言葉をくり返すこと。

さようなら ひまわり……

さようなら 夏休み……

(ひまわり)

〈比喩〉

様子や動きをほかのものとたとえること。

おこっている人の顔はふん火直前の山のような

・擬人法は6ページに説明あり



詩の表現技法

せみ

地下の暗い穴の中

息をひそめて

まるでねむっているように

比喩

やがて来る そのときまで

静かに

静かに

くり返し

さあ もういいだろう

長い時を経て この暗い穴から出るときが
ついに来た

一步一步 しんちように

擬人法

高く

高く

くり返し

照りつける太陽の力を借りて

精いっぱい鳴きさけぶ

伝えるんだ

倒置法

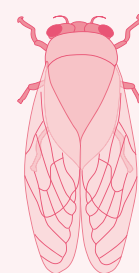
はくが確かにここにいることを

強く

強く

くり返し

(豊川市文詩集『えんびつ』第55号)



〈例〉

外の……、人がし……

一步…… しんち……
上を…… ひた…… 登るんだ

(せみ)

と述…… 強めたり…… ムを…… りするために、主語

(部)

伝える……
はくが確……

(せみ)

(1) あなたが気に入った作品はどれですか。

(例) せみ

(2) どんなどころが気に入りましたか。

短い詩だけれど、せみが一生けん命生きようとす
る思いが伝わってくるところ。

(3) くふうされている表現を見つけましょう。

表現のくふう	言葉
(例) 体言止め	あつという間に皮の山 (夏の味)
くり返し	さようならひまわり…… さようなら夏休み…… (ひまわり)
くり返し	静かに (せみ)
比ゆ	まるで (サトウ)

二 詩を書く。

(1) 何に書くか、題材を決めましょう。
(自分の心を表現した出さず、身のこころを書き出してみましょう)

部活動

(2) 連想メモに書き出して、自分がいちばん伝えたいことを考えてみましょう。

部活動

(3) いちばん伝えたいことを書きましょう。

勝ったときの喜び チームワークの大切さ
努力がむくわれる など

(4) 3〜6ページの「表現のくふう」や作品を参考にし、原稿用紙に詩を書いてみましょう。
原稿用紙は後ろに3〜36ページにあります。切り取って使います。

三 書いた詩を読み合おう。

自分の思いが相手に伝わっているでしょうか。書いた詩を交換し、感想を言い合おう。

表現のくふうとして「くり返し」が使ったことで、苦しくてもあきらめずに練習していこうという強い思いが伝わってきました。この詩を読んで、ぼくも、あきらめずにいろいろなことにチャレンジしていこうと思いました。

()

より ()

四 ふり返りをしよう。

表現をくふうして、自分の思いが伝わるように詩を書くことができましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、下の□に書き込みましょう。

《◎…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》

「表現のくふう」で、詩を書くことができましたか。使った表現に印をつけましょう。

連	体言止め	対句
☐	☐	☐
比ゆ	擬音語	くり返し
☐	☐	☐
擬人法	倒置法	
☐	☐	

○目標 論の進め方を工夫して、防災についての提案書を作ることができる。

○関連 「いざというときのために」

いざというときのために

ろん論の進め方をくふうして書きましょう

私たちの身の回りでは、日々さまざまな自然災害が起こります。読み手に分かりやすく伝えるには、論の進め方や資料の活用方法のくふうが大切です。防災への取り組みについて考え、提案書をまとめましょう。

一 題材を決めて調べよう。

(1) 提案の例を参考に、調べて分かったことを書こう。

提案の例

- ・災害から身を守るために必要なこと
- ・最新の防災グッズはこれだ
- ・非常食など備蓄ちくの大切さ
- 避難所へのひなんのため

メモ

【本やインターネットで調べて分かったこと】

・教科書64ページを参考に、自由に書かせてもよい。

始め	〈導入〉
中	〈 〉
	〈 〉
	〈伝えたいこと〉
終わり	〈提案・まとめ〉

二 論の進め方をくふうしよう。
提案を分かりやすく伝えるための論の進め方、資料の活用方法を考えよう。

〈原因〉	〈結果〉
〈 〉	
〈 〉	
〈 〉	
〈考え〉	
〈事実〉	
↓	
〈考え〉	

(3) 伝えたいことを整理しよう。

(2) 提案することを決めよう。

三 提案書を完成させよう。

- (1) 読み手に分かりやすく伝わるように、自分の伝えたいことを書きましょう。
- (2) 文章が書けたら、適切な情報を追加してあるか、また説得力のある文章になっているか、文章を推敲^{こう}しましょう。

(例) 地しんは、いつでもどこでも起こります。

地しんを身で感じるだと考えていないために、危機意識

識なく、～対策しない～いるのかもしれませんが。

し～地しんは、いつでも～対策を取るべきです。

- (3) 資料の配置や見せ方を考えて、提案書を完成させましょう。
用紙は後ろの37～38ページにあります。

四 完成した提案書を読み合おう。

完成した提案書を友達と読み合い、感想を書いてみましょう。



五 ふり返りをしよう。

論の進め方をどのようにくふうしながら提案書を作りましたか。

(より)

(より)

(より)

六年生の本だな

○読書感想文を書きましょう

今までに、どんな本を読みましたか。楽しく読んだ本、なみだを流しながら読んだ本、思わず笑ってしまった本、自分をふり返って考えることができた本もあるでしょう。

そんな本を、自分の心の中にしまいこむのではなく、友達やうちの人も、多くの人にも、ぜひ教えてあげましょう。

いちばん書きたいことをはっきりさせよう

何を書いたらいいかわからない、という人もいます。その本を読んだときに、いちばん最初に感じた気持ちを大切にしましょう。

伝えるように書こう

自分がどこに感動したのか、どうして感動したのかを相手（読み手）に伝えるように書くためにはどうしたらよいでしょう。中心人物や登場人物の生き方や考え方に対する思いや疑問（ぎもん）を書いた「自分にも同じことがあったな」という経験を書いたりすることが大切です。

考にして、みんさんも感想文にちょう戦してみましよう。

一 感想文から学ぼう。

瑞希さんの感想文を読みながら、感想文を書くときのポイントを見つけよう。

心の強さとは

安城・錦町小 小野 翔

①「どんなに逆風が強くても、自分が『これだ』と信じる意見を言い続けなければならない。それは必ずチャンスが来るものなんですよ。」

② これは、日本初の世界遺産となった屋久島の森を守った兵頭さんの言葉です。なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか、この本を読み始めた時には不思議でした。圧（おさ）迫（おさ）的に強い立場の国に対して、一人で屋久杉のばっ採（ばっさい）を反対したからです。私は、自分の意見を人に伝えるのが苦手だから余計に兵頭さんの行動に興味をもちました。

③ しかし、本を読み進めていくうちに少し自分の考えが変わってきました。大多数の人たちが国の意見に従っている中で、自然を守るために十年もかけてばっ採を止め、屋久島を世界遺産へと導くことができたのは、とても勇気があることだと思いました。さらに、

始め

○書き出しをくふうしよう。

作者は、内容の興味をもった

書き出しをしよう。

本をきっかけになったことから

中心から（感動の理由、自分のこれまでの考えと比べるなど）

- ・登場人物や筆者へのよびかけから
- ・自分の経験から
- ・本の内容の紹介（自分が気に入った文のぬき出し）から

中 3～6

○内容を具体的に書こう。

兵頭さんの行動について紹介し、自分の

兵頭さんは屋久杉の森のばっ採を反対する時に、ただ反対するだけでなく、しっかりと自分の意見を伝えていました。

④ 私は、話し合いの場で人の意見に流されてしまうことがあり、自分の意見を伝えようか迷うときがあります。先日、卒業アルバムに使う写真をとる場所を五から六人の班で決めました。自分がとりたかった場所を主張することができず、友達の考えに流されて決定してしまいました。しっかりと意見を言いたいという気持ちはあっても、それを言うと反対されないか、自分勝手だと思われないか、などと考えてしまい、自分の意見を言えませんでした。決まった場所がいやなわけではないけれど、自分の好きなことを後かいて、きつと自分の意見を言いたくて、その上でみんなと相談して、兵頭さんが意見を主張できるとは、世界遺産として数人で始まったばっ採

⑤ 兵頭さんが意見を主張できるとは、世界遺産として数人で始まったばっ採

姿をふり返って考えたことをまとめています。
③④段落
「なぜ兵頭さんは、国の意見に逆らってまで屋久杉の森を守るのか」という自分の疑問に対する答えを本文や題名から考え、「心の強さ」というキーワードを使ってまとめています。
⑤段落
次のようなことに気をつけて書いてみましょう。
・あらすじをまとめて書くのではなく、自分の考えにつながるエピソードを選んで書く。
・登場人物の行動や言葉を引用し、自分の考えとかかわらせながら書く。
・事実（本に書かれていること）と自分の感想・意見を区別して書く。

島なのだと思えます。屋久島を守った兵頭さんには、私にはない強さがたくさんありました。その心の強さとは、自分の意見と人に伝えるということであり、正しいことを正しいと感じる感でもあると思います。
⑦ 私は、これからの生活の中で、自分とちがう意見がある人が賛成しても、理由を示して自分の意見を言えるようになりたいです。また、力の強い者や数の多さに負けず、正しいことを正しいと言え、強さをもちたいです。この本を通じて兵頭さんの生き方や考え方を、ことができて本当によかったです。

（安城の子どもの読書感想文集『貝がら』第53号）

武田剛「もうひとつの屋久島から」世界遺産の森が伝えたいこと」フレーベル館

感想文を書くために

- ① もう一度作品をていねいに読み返しながら、感じたことや自分の考え、気に入った部分などをメモしておく。
- ② 何を書くかを考え、中心を決める。
 - ・ 作品のテーマへの思い
 - ・ 生き方、考え方に対する思い
 - ・ 疑問点、問題点
 - ・ 自分の生活や社会とのかかわり
 - ・ 同じような経験
 - ・ 引用した部分について、自分が受け止めたことや感じたこと
- ③ どのような順序で書き進めるか、構想を立てる。

二 感想文を書く準備をしよう。

心に残った本を選び、次のことについてメモを取りながら、もう一度本を読み返してみよう。

書名

(1) この本を選んだわけ、この本を読もうと思ったきっかけ

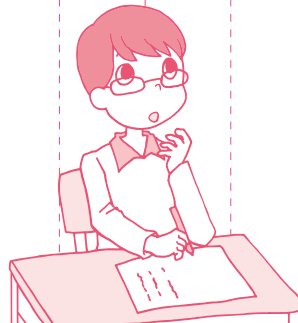
作者名

(2) あらすじや本のだいたいの内容



(3) 心に残った場面や言葉、初めて知ったこと

(4) 読んで読んだものの見方



(5) 本から学んだことに対する自分の決意や思い

心の動きを はい 俳句で表そう

○表現をくふうして俳句を作しましょう

○目標 生活の中から題材を選び、言葉の選択や順序を工夫して、発見や感動
○関連 「心の動きを俳句で表そう」



三 感想文を書こう。
どんな順序で書き進めるか、組み立てを考えてから、感想文を書きましょう。

○ 題名

「△△を読んで」という題名のほかにも、次のよう
にくふうしてみましょう。

- ・自分がいちばん考えさせられたことを短い言葉で
- ・本文中の心に残った言葉を選んで

○ 始め

書き出しのくふう（16ページ）を参考にして書きま
しょう。

○ 中

読み取りメモ（19～21ページ）を見て、伝えたい内
容を整理しましょう。自分が経験したこと、見たこと、
聞いたことや自分と登場人物を比べて考えたことも書
いてみましょう。

○ 終わり

の読み取りメモを見て、心に残る終わり方になる
ようにくふうしましょう。自分の決意や思い、夢
などを書い

《児童の作品》

風ふいて 道路いちめん 桜色

〈季語…桜 季節…春〉

柴田 一希

電線に 音符を描く つばめたち

〈季語…つばめ 季節…夏〉

後藤 なつ美

赤とんぼ 野球のノック 見に来てる

〈季語…赤とんぼ 季節…秋〉

川上 翼

初もうで 人におされて 願い事

〈季語…初もうで 季節…冬〉

吉中 菜穂

二 材料を集めよう。

生活の中で気づいたこと、季節を感じた出来事から、俳句の材料を集めましょう。現在の季節から連想して、思い浮かぶ言葉や出来事を書き出してもよいでしょう。

季節を感じたときを思い出してみよう。

三 俳句を作ろう。

俳句には、季語と呼ばれる季節を表す言葉が必ず入ります。季語を一つ決めて作ってみましょう。そのときの情景や感動が読者に伝わるように、表現に工夫を凝らしましょう。「楽しい」「うれしい」「な」といった気持ちや感じたものを何かにたとえたりして表現してみよう。

四 俳句を仕上げよう。

同じ言葉でも、順序を入れかえたり、表現を少しかえたりすると、感じがちがってきます。

いつの間にみんな集まる日なたぼこ



日なたぼこみんな集まるいつの間に
日なたぼこいつの間にやらみな集う



くふうしてみよう

- ・言葉の順序を入れかえる
- ・様子をほかのものに例える
- ・情景を伝えるのにふさわしい言葉を探す
- ・直接気持ちを伝える表現をさける など

(1) 季節の言葉を集めよう。

 〈春〉 しおひがり おぼろ月 茶つみ 種まき つくし など	 〈夏〉 ほたる ゆかた せみの声 夏休み すいか など
 〈秋〉 木の実 秋風 くり すずき いもほり など	 〈冬〉 ストーブ お正月 雪 たき火 ひなたぼっこ など

・四つすべての季節を書かなくてもよい。

(2) 三の(1)から、見えたもの、聞こえた音、ただよっていたかおり、ふれた感覚、口に広がった味などをよく思い出して、五・七・五で表してみよう。

※リズムがわからなくてもよい。

(1) 自分の作

たりして

言葉の順序

かえたり、表現を少しかえ

--

五 七 五

--	--	--

--

五 七 五

--	--	--

--

五 七 五

--	--	--

(2)

いちばん気に入ったものに○をつけよう。

・友達の作った俳句の良さ（思い浮かべた情景や、おもしろいと思ったところ）に気づかせる。

五 クラス句会を開こう。

投票用紙

作った俳句を持ち寄って、クラス句会を開きましょう。

クラス句会の進め方

- 1 作った俳句を一人一句ずつ紙に書いて提出する。
作者名は書かない。
- 2 集めた紙に番号をつけてはり出す。
- 3 はり出された句の中から、よいと思う句を一人三句ずつ選ぶ。
- 4 投票用紙に、選んだ句の番号を記入し、提出する。
- 5 投票用紙を集計して、結果を発表する。
- 6 自分の選んだ句や、自分の感想などについて、発表し、感想や意見を述べる。

(---キ---リ)---ト---リ)---セ---ン---

(1) よいと思った俳句を書きましよう。また、

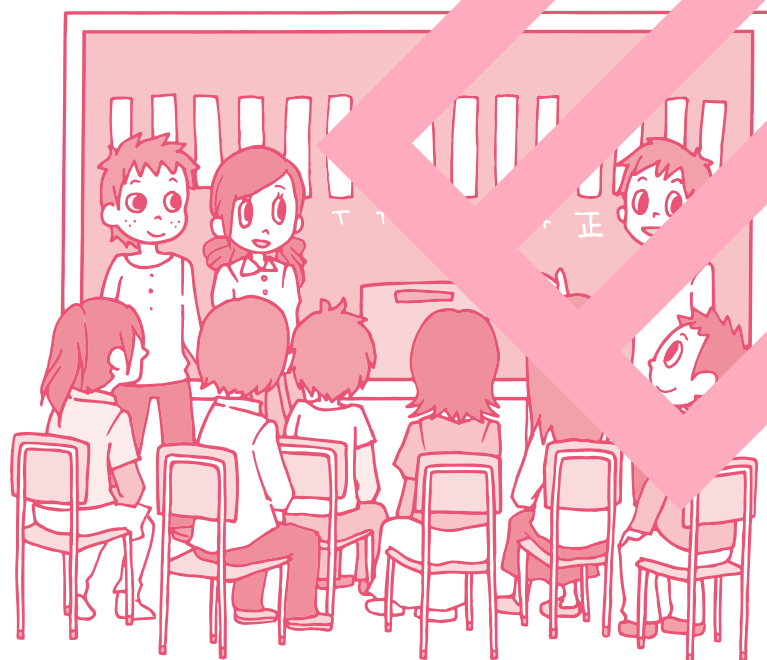
(2) 自分の句と感じ方や表現が似ている句を書きましよう。

(3) (2)で選んだ句について、どのような点が似ているの書きましよう。

(4) 振り返りをしましょう。

表現をくふうして俳句を作り、感想を伝え合うことができ
ましたか。◎、○、△、×の四段階で評価し、左の
に書き込みましょう。

《…よくできた ○…できた △…もう少し ×…うまくいかなかった》



投票用紙

名前

俳句を選ぶときのポイント

- 一 季語（季節を表す言葉）が入っているか。
 - 二 五・七・五などの、リズムがいいか。
 - 三 表現のしかたがすぐれているか。
- （たとえば、言葉の順序の入れかえ、音、情景など）

3～6ページの「表現のくふう」参照

			番号
			感想(選んだ理由や気に入ったところを書こう)

○目標 目的に応じて情報を集め、パンフレットで情報を発信することができる。

○関連 「発信しよう、私たちのSDGs」

発信しよう、
わたし私たちのSDGs

エスディー・ジーズ

「発信しよう、私たちのSDGs」を発信しましょう

エスディー・ジーズ
SDGs（持続可能な開発目標）は、世界中の人々が豊かに暮らせるよう
になるために、二〇一五年に国連で採択された十七の目標です。未来のため
に、今、私たちが考えるべきことは何かを発信しましょう。

相手（読み手）や目的を明確にし、SDGsについて発信するパンフレッ
トを作りましょう。

一 テーマを決めて情報を集めよう。

どのようなテーマについて、だれに発信するのか、グループで話し合いま
しょう。

テーマ

教科書171ページの二次元コード「SDGsとは」を利用して書かせても
よい。

対応しているSDGsの番号（1～17）

下級生 地域の方 など

メモ

二 パンフレットの構成を考えよう。

テーマについてさらに情報を集め、どのような記事
を書くのか、どのようなパンフレットの構成にするの
かなどを決めるために、グループで編集会議を開きま
しょう。

(4)	(3)	(2)	(1)
() さん	() さん	() さん	() さん

三 情報を集めよう。

構成が決まったら、自分が担当することについて、さらに情報を調べましょう。

情報を集めるときには、情報の信頼性と著作権に気を付けましょう。

情報①	日本における二〇一九年度 エネルギーの割合。
出典	資源エネルギー庁の資料より
情報②	
出典	

情報③

出典

情報④

出典

情報⑤

四 情報を効果的に活用しよう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報をどのように結び付けて示すと効果的か考えましょう。

(1) 教科書173ページを参考にして、キャッチコピーを考えたり、使う表やグラフを選んだりしましょう。

キャッチコピー

○読み手をひきつける短い表現のことで、ポスター全体の題名の役割も果たします。

・目立つところに配置しましょう。

表やグラフ

・どの資料から提示すると効果的であるかを考えて、資料の順番を決めましょう。

・読み手がどのように記事を読み進めていくかを考えて、配置しましょう。

(2)

コピーを考

(3)

ページで集め
的に
るために
資料を選び、しぼりこみま

選んだ情報
29
シで選んだ情報の番号を書く
メモ

五 パンフレットを書こう。

キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報を使って文章を書きましょう。
用紙は後ろの39〜40ページにあります。



パンフレットの
完成例

六 完成したパンフレットを、読み合おう。

完成したパンフレットを友達と読み合ったり、ほかのグループと交換したりして感想を書いてもらいましょう。

(より)

(より)

(より)

七 ふり返りよう。

さまざまな情報に信じているかなどに気を配りましたか。書いてみましょう。

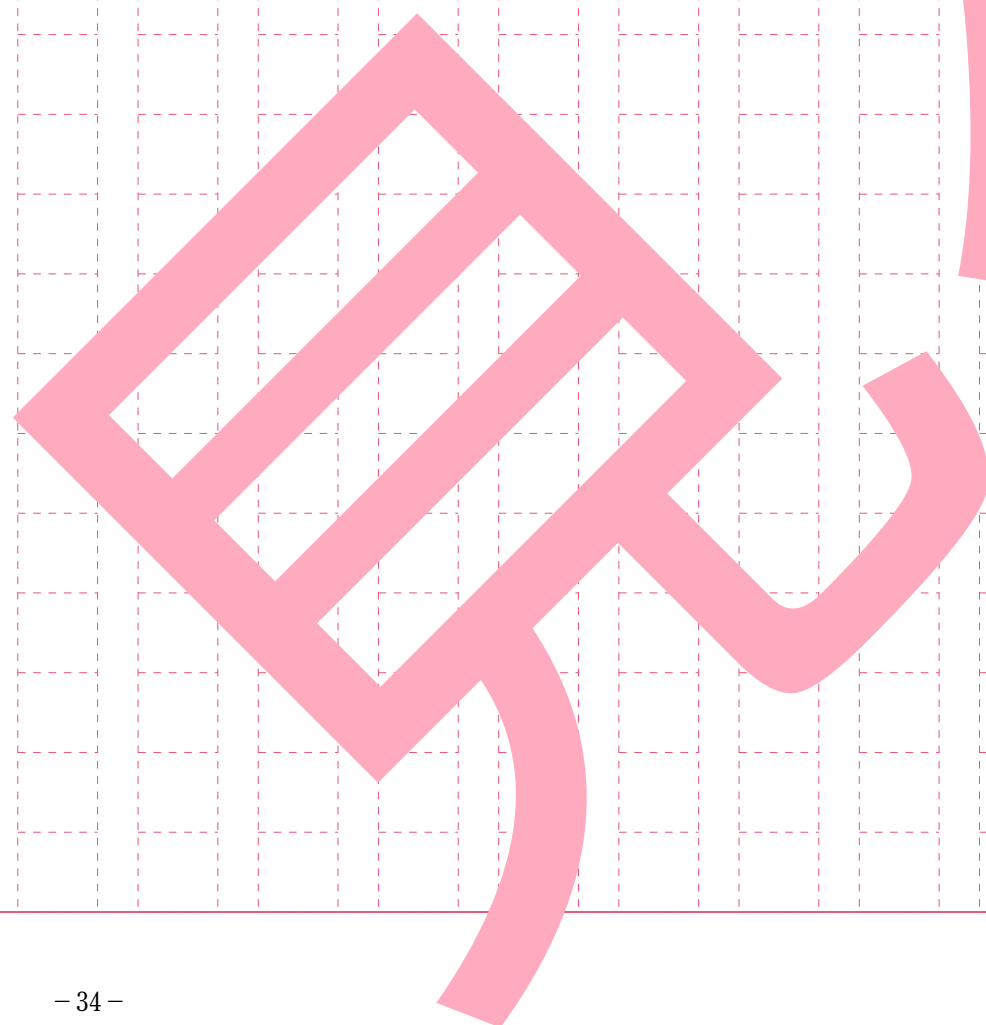
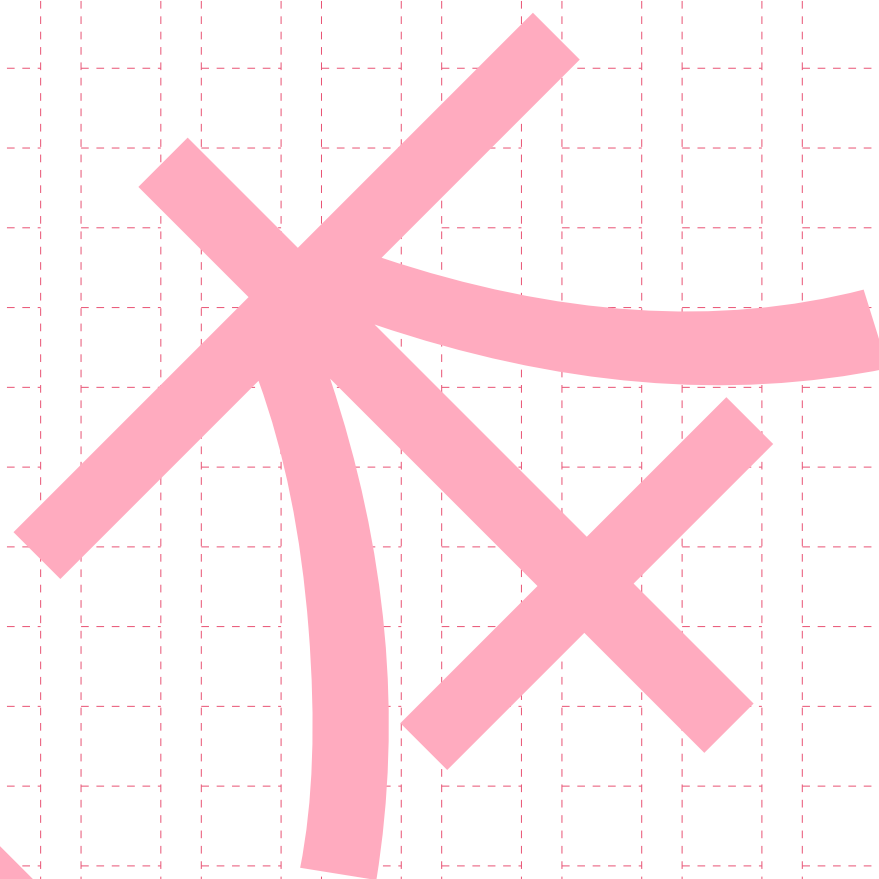
・まとめなどに活用するとよい。

←題 三マス空けて

←書き出しは一マス空ける

名前

←一マス空ける

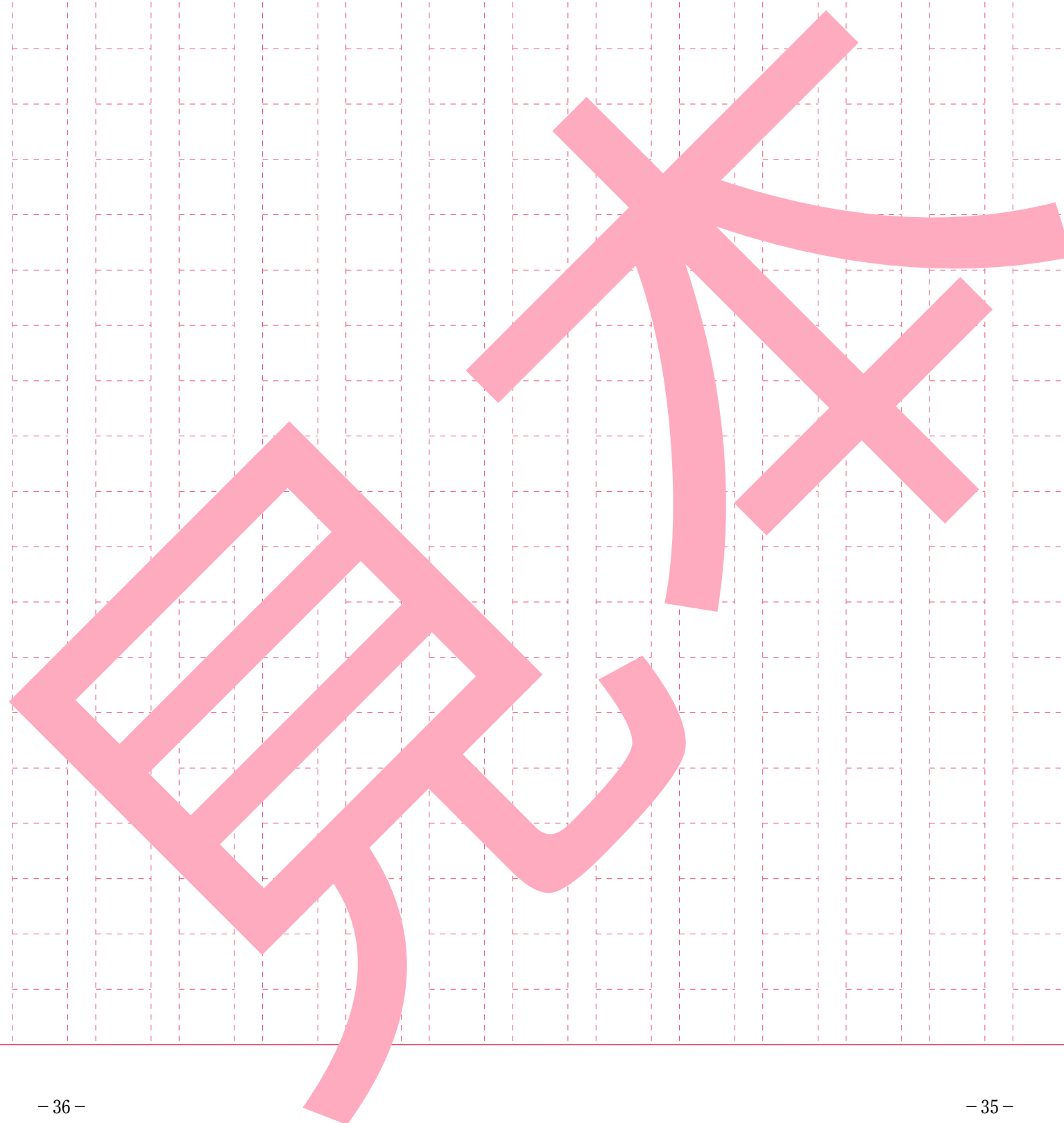


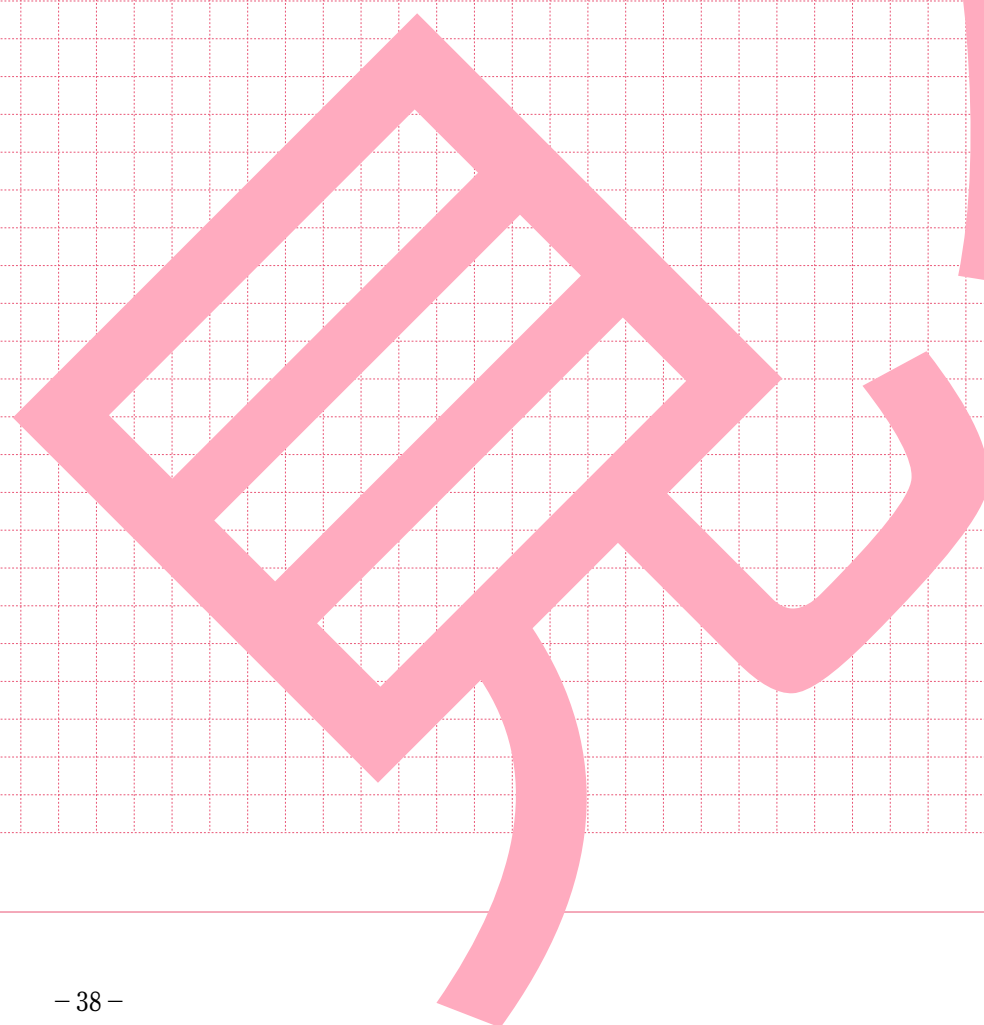
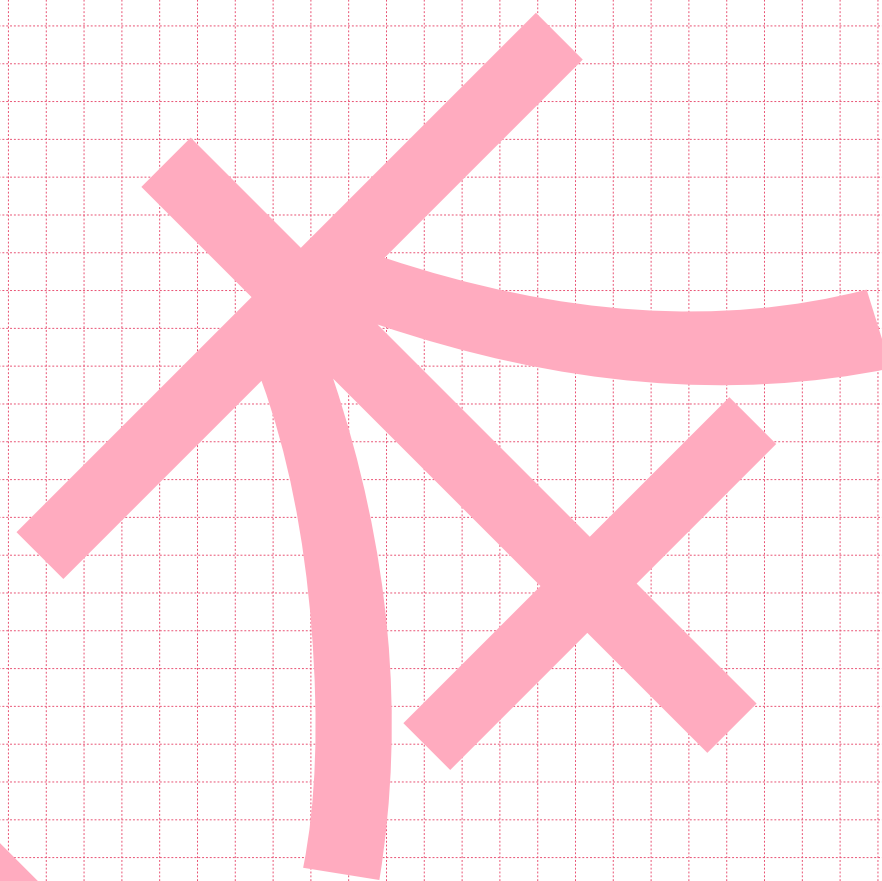
←題 三マス空けて

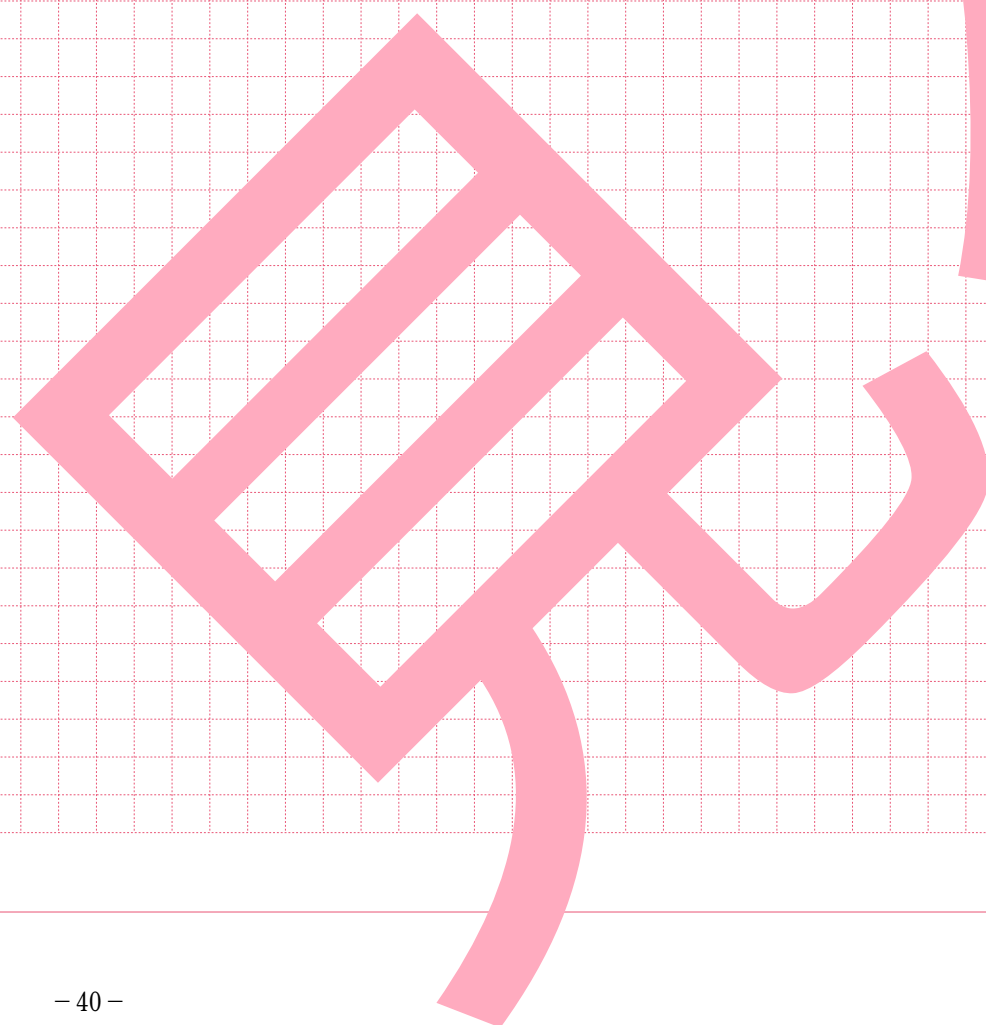
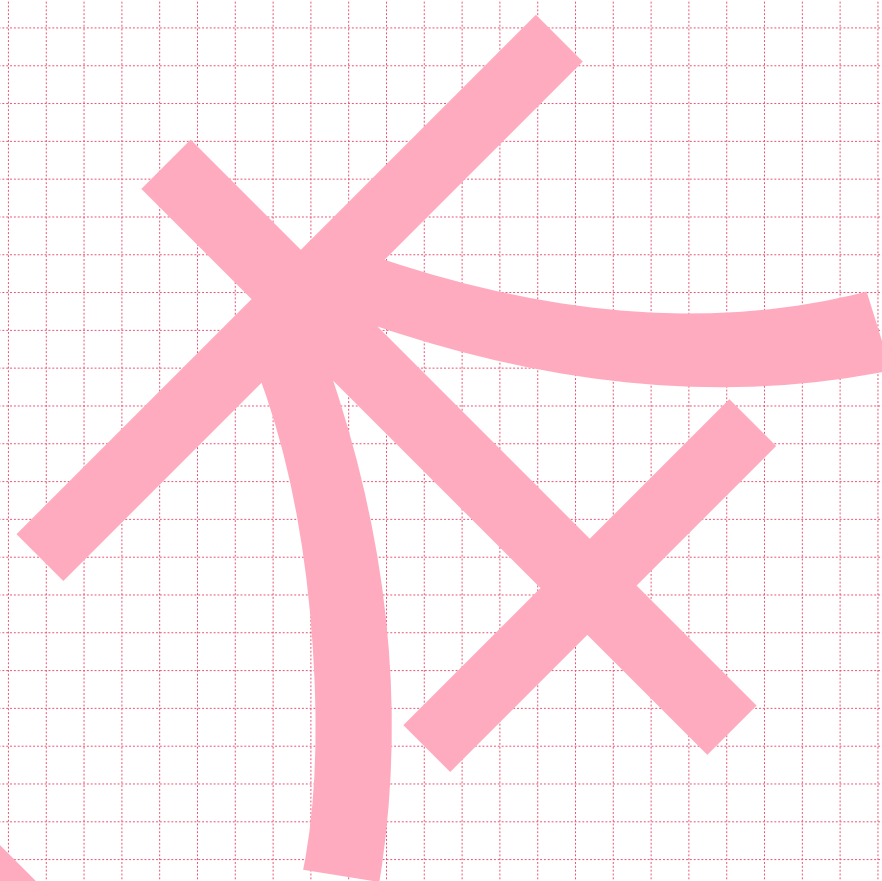
←書き出しは二マス空ける

名前

←二マス空ける







表現をくふうして書こう(詩)

《教科書との関連》
「詩を読もう」

—いろいろな表現のくふうを知り、表現の効果を考えて書きましよう—

一 学習目標

1 詩の書き方を学び、自分の思いや感動を読む人に分かりやすく表現することができる。

二 指導事項

1 日常生活を振り返り、自分の感動したことを題材としてまとめさせる。
2 読み手に分かりやすいように、例文などを参考にさせながら、構成や表現方法を工夫させる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 参考作品を読み、効果的な表現の工夫について学ぶ。	①① P3～6の作品を読みながら、表現の工夫について学習する。 (設問一) (2) P3～6の作品を読み、自分が好きな作品を選び、理由を書く。また、工夫された表現について学ぶ。 (設問二)	① P3～6の作品のどこに表現の工夫がされているか確かめさせる。 ○気に入った言葉や表現を見つけることで、作品の良さに気づかせ、詩を書くときの参考にさせる。
② 題材を決める。	② 身近な人のことなどを書き出し、題材を決める。その感動を書き出す。 (設問二)	② 感動したり、発見したりした出来事を書かせ、題材を集めさせる。その中から題材を決めさせる。 ○題材をもとに連想メモを書かせることで、感動したことを具体的にさせる。

③ 詩を書く。	③ P3～6の「表現のくふう」や作品を参考にして、原稿用紙に書く。 (設問三)	③ 自分で考えたきつかけや、感じたことを自由に心を動かさせて書く。 ○「うれい」などの感情を表す時は直接的な表現で、自分の感じた感覚を素直に書く。 ○「うれい」などの感情を表す時は直接的な表現で、自分の感じた感覚を素直に書く。
④ 推敲する。	④ 書いた詩を声に出して読み、推敲する。その際、P3～6の「表現のくふう」を参考にする。	○自分の書いた詩を声に出して読ませ、言葉の調子やリズムについて考えさせる。
⑤ 感想を伝え合う。	⑤① 友達の詩を読んだ感想を書く。 (2) 感想を伝え合う。 (3) 友達の書いた感想から、自分の詩の良いところを見つける。	⑤ ①お互いの作品を読み合い、友達の表現の工夫を見つけ、相互評価させる。
⑥ 振り返る。	⑥ 自分の思いが伝わる詩を書くことができたか振り返る。 (設問四)	⑥ ①使った「表現のくふう」を確かめさせる。 ○学習のまとめとして、「表現のくふう」を生かして、自分のいちばん伝えたい思いが伝わるように詩を書くことができたか、振り返らせる。

いざというときのために
——論の進め方をくふうして書きましよう——

一 学習目標

1 論の進め方を工夫して、防災についての提案書を作ることができる。

二 指導事項

- 1 原因と結果、事実と考えなど、情報と情報の関係を的確に示させる。
2 「始め・中・終わり」など、読み手に伝えたいことの中心を考え、情報を整理させる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 題材を決めて調べ、伝えたいことを整理する。	① 防災について調べ、伝えたいことを決める。 ② 呼びかけたテーマに合った資料を整理する。 ③ 伝えたいことをまとめる。	① 書き出した情報を比較したり分類したりしながら、提案書に載せる情報を検討させる。 ○ 事実と考え、原因と結果など、情報と情報の関係の示し方に注意を促す。(教科書P 65 二次元コード参照)
② 論の進め方を考える。	① 始め・中・終わりを決める。 ② 文章全体の構成を工夫する。	② 提案書の内容を分かりやすく示すために、図表などの資料を載せるかも検討させる。

③ 提案書を書く。	③ ① 割り付けをもとに、自分の伝えたいことを文章にまとめる。 ② 文章を推敲する。 ③ 論の進め方を工夫して、提案書を完成させる。	③ ① 説くべき内容や文章になるように、適切な情報を載せる。 ② 推敲の観点から、読み手に伝わりやすいように推敲させる。 ③ ① 説くべき内容や文章になるように、適切な情報を載せる。 ② 推敲の観点から、読み手に伝わりやすいように推敲させる。
④ 完成した提案書を読み合い、振り返りをする。	④ ① 完成した提案書を読み合い、感想を書く。 ② 呼びかけたいテーマが伝わるには、どのような工夫が必要か考える。 ③ 提案書作りを振り返り、論の進め方で効果的に呼びかけを具体的に書く。	④ ① 具体例を見つけて、自分の提案の良さを伝える。 ② 提案の内容が伝わるようになっているか。 ③ 提案を受け取った人から、どう思っているか。 ④ ① 具体例を見つけて、自分の提案の良さを伝える。 ② 提案の内容が伝わるようになっているか。 ③ 提案を受け取った人から、どう思っているか。

六年生の本だな

―読書感想文を書きましよう―

《教科書との関連》
「六年生の本だな」

一 学習目標

- 1 本を読んで感じたこと、考えたことを、読み手に伝わるように、構成や表現を工夫して書くことができる。

二 指導事項

- 1 いちばん心に残った場面のある本を選ばせる。
- 2 本を読んで、感じたことや考えたことをはっきりさせて書かせる。
- 3 本を読んだことを通して、何を考え、これからどうしていきたいかが読み手に伝わるように工夫して書かせる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 題材を集める。	① いくつかの本の中から、いちばん心に残った場面のある本を見つけ、読みながらいろいろな思いやつに絞る。	① ① いくつかの本を読むことで、題材を見つける手がかりとさせる。 ② 思いや考えについて簡単にメモをとりながら読ませ、後で振り返るときの手がかりとさせる。 ③ 言いたいことがはっきりしているものを選ばせる。
② 作品「心の強さとは」を読んで学習する。	② (1) 作品「心の強さとは」を読み、作品の思いやつをメモする。 (2) 自分なりに考えた本について、説明部分を書く。 (3) ③ ④ ⑤ ⑥	② ② 優れた表現、気に入った表現に線を引かせる。 ③ ③ 説明部分の「工夫している点」や「気をつけた点」について目を向けさせる。

③ 構想を練る。	③ 書こうと考えた本について、その本を選んだわけやあらすじについて書き、特に心に残った場面について詳しく書く。	③ ③ ④ ⑤ ⑥
④ 記述する。	④ メモにもとづいて、原稿用紙に記述する。	④ ④ ⑤ ⑥
⑤ 推敲する。	⑤ 書き上げた文章を読み返し、表記上の誤りを訂正したり、内容を推敲したり。 ・友達と読み合って直す。 ・声に出して読んでみる。	⑤ ⑤ ⑥
⑥ 発表会をする。	⑥ (1) 友達の発表を聞いて、それぞれの考えや気持ちがよく分かるか話し合う。 (2) 友達の紹介した本で、気に入ったものを読んでみる。	⑥ ⑥ ⑦

心の動きを俳句で表そう

―表現をくふうして俳句を作りましょう―

《教科書との関連》

「心の動きを俳句で表そう」

一 学習目標

- 1 生活の中から題材を選び、言葉の選択や順序を工夫して、発見や感動を俳句で表すことができる。

二 指導事項

- 1 参考作品を読んで、俳句のきまりを確かめたり、作品のすぐれているところを話し合ったりさせる。
- 2 身の回りの生活の中から諸感覚を働かせて俳句の材料を集めさせ、言葉や表現を吟味して、俳句を作らせる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① 俳句を読んで材料を集める。	①(1) 学習のねらいを確認し、例文を読み、俳句のきまりを確かめたりする。 (2) 身の回りの生活の中から諸感覚を働かせて俳句の材料を集める。 (設問二)	① 優れた表現、気に入った表現に線を引かせる。 ○生活の中で季節の移り変わりを強く感じたことや、自然の移り変わる様子を見て感じたこと、毎日の生活や年中行事で感じたことをもとに、たくさん言葉を集めさせる。
② 集めた材料をもとにして俳句を作る。	(設問三)	② 二に挙げた季節の季語を考えさせる。 ○「きれい」「うれしい」「楽しい」などの気持ちを表す言葉を使わずに、発見や感動を表すには、どのような言葉を吟味できるよう助言する。

③ 例をもとにして、自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりしてみる。	③(1) 作品例を読み、同じ言葉でも順序を入れかえたり表現を変えたりする。 (2) 自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 (設問四)	○作品例を読み、同じ言葉でも順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。
④ クラス句会を開き、感想を伝え合う。	④(1) クラス句会の進め方を読み、句会について知る。 (2) クラス句会を開き、互いの作品の良さを味わう。 (3) すぐれていると思った俳句を三句選び、感想を書く。 (4) 自分の句と友達の句を比べ、感じ方や表現が似ている句を探し、点が似ているかまとめる。 (5) 自己評価する。	○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○自分が作った俳句の言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。 ○「きれいな言葉」など、言葉の順序を入れかえたり表現を変えたりする。

発信しよう、私たちのSDGs

——相手や目的に応じて情報を発信しましょう——

《教科書との関連》
「発信しよう、私たちのSDGs」

一 学習目標

1 目的に応じて情報を集め、パンフレットで情報を発信することができる。

二 指導事項

- 1 相手や目的を明確にして、伝える情報をしぼりこませる。
2 図表を用いるなど、さまざまな方法で情報を集め、出典や信頼性を確かめさせる。

三 展開例

学習の流れ	内容・活動	指導上の留意点
① テーマを決めて情報を集める。	① 学習のねらいを確認し、情報を集める。 (設問一)	①○テーマを決めて、SDGsの十七の目標のどれと対応しているのかを確認させる。 ○それぞれの目標は、単独で立てられているのではなく、互いに関連し合っていることにも気づかせる。
② パンフレットの構成を考える。	② パンフレットの構成をグループで考える。 (設問二)	②○どうすれば、読み手に分かりやすく情報を発信することができるのか、グループで考えさせる。

③ 情報を集める。	③ 自分が担当することについて、さらに情報をまとめる。	③○教科書に、情報の信頼性を確認するために調べたことなどを発表する際は、必ず出典を明記し、デジタルノートを使用するなどして情報を整理する。(教科書P172以下を参照)
④ 情報を効果的に活用し、パンフレットを書く。	④(1) キャッチコピーや説明の文章、図表などの情報をまとめる。 必要資料を選び、しぼりこむ。 一人一人の記事を書き、一冊にまとめる。 パンフレットを推敲する。	④○表やグラフなど、図表を用いて情報を効果的に活用し、読み手に分かりやすく伝えるようにさせる。 ・パンフレット全体のテーマに沿っているか。 ・工夫など、グループで決めたことが反映されているか。 特にこだわったポイントは何か。
⑤ 完成したパンフレットを読み合い、振り返りをする。	⑤(1) 完成したパンフレットを読み合い、感想を書く。 (2) パンフレット作りを振り返り、相手や目的に応じて情報を発信するために工夫した点を具体的に書く。	⑤○具体的に良さを見つけて書かせる。 ・相手や目的を意識できたか。 ・読む人に伝わるように、図表を用いるなど、伝える方法を工夫できたか。 ・一つだけでなく、複数の情報源に当たっているか。 ○友達の感想を参考にすることで、客観的に自分の工夫の効果を振り返らせる。